● 授業科目の内容紹介

専門教育科目

日本語日本文学科

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
卒業研究	**〔2〕**		**日**	**2**	**瀬戸宏太**

キャスト：１　必修科目

Ⅰ　主題

本科における学修の成果を論文にまとめる。

Ⅱ　授業の到達目標

1.自身の関心に即して先行研究を踏まえながらテーマを設定する。
2.テーマに応じた資料収集、調査、読解、分析等の一連の研究作業を行う。
3.研究の成果を論文の形式にそって書く。

Ⅲ　授業の概要

原則として自力で問題を解決していくわけだが、指導は、その進行の節目にあわせて、次の三つを基本に据える。すなわち、題目提出前のテーマの吟味、下書きをもととした内容の再検討、および論文提出後の面接である。中でも下書きは必ず提出し、積極的に批判を受け、これに対する答えを探すことで論を深めてほしいと思う。自分の考えを、ひとりよがりでなく、他者に訴えかけるべくまとめることは、決して簡単な作業ではない。はじめて書く論文かもしれないが、学生生活の締めくくりの論文でもある。分量だけでなく、高い水準が求められる。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1-5.　扱う作品の決定・再読	自分が面白いと思える作品を見つけ、読み直す。
6-10. その作品の面白さ	どのように面白いと感じているかを言葉にする。
11-14.テーマの決定	面白さを説明するのにふさわしい切り口を探す。
15-16.テーマに沿った下書き	自分の考えを目に見える形にする。(夏休み中)
17-24.説明不十分な箇所再考	説得力を持たせるための試行錯誤。
25-27.提出のための様式確認	目次をつける等、論文としての形を整えていく。
28-30.卒業研究発表会・面接	自分の書き上げた論文を見据え直す。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

各自のテーマに即して用意すること。

Ⅵ　参考書・参考資料

新編日本古典文学全集	小学館
新日本古典文学大系	岩波書店
新潮日本古典文学集成	新潮社

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　　合計 100		20	45	35	
自身の関心に即したテーマ設定		○	○	○	
テーマに応じた一連の研究作業		○	○	○	
研究の成果を論文の形式に沿って書く			○	○	
文章の論理的構成力			○		
文学への関心の深化			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

自力での地道な取り組みと同時に、面接前には進捗状況を整理しておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

論文の出来が不本意だった場合は、提出後の面接で補うこと。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
卒業研究	**〔2〕**		**日**	**2**	**中村国男**

キャスト：１ 必修科目

Ⅰ 主題

本科における学修の成果を論文にまとめる。

Ⅱ 授業の到達目標

1.自身の関心に即して先行研究を踏まえながらテーマを設定する。
2.テーマに応じた資料収集、調査、読解、分析等の一連の研究作業を行う。
3.研究の成果を論文の形式にそって書く。

Ⅲ 授業の概要

明治・大正・昭和・平成時代の主要な小説家や詩人等 1 名とその作品を選び、原稿用紙 30 枚程度の作品論完成を経験させる。先行論文の受け売りや、諸説のつなぎ合わせではなく、学生なりに独自性のある論文が書けるように取り組ませる。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
［題目提出まで　4～6月］	
1.　扱う作者の決定・年間計画	年間計画を確認する。
2～5.　作品の絞り込み・仮説設定	興味ある作品を絞り込み、論文の仮説を作る。
6～10.　メモ蓄積・論点題目の内定	作品を読み込み、題目を絞る。
11.　題目決定・提出	論点、題目を決定する。
［メモ蓄積から論文作成へ　7～12月］	
12～14. メモ蓄積	作品を読み込む。
15.　夏休み中の計画確認	蓄積したメモを並べて夏休み中の整理を計画。
16～20. 10枚分書き上げ	原稿用紙10枚の下書きを作成。
21～25. 20枚分書き上げ	次の10枚の下書きを作成。
26～28. 論文完成・修正	次の10枚を完成し、全体を推敲して完成。
［論文完成以降　1月］	
29～30. 最終面接	論文の評価。

Ⅴ 使用テキスト・教材等

なし

Ⅵ 参考書・参考資料

各自で探すこと。また、面接等で適宜助言する。

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100			70	30	
自分なりのテーマ設定力			○	○	
資料収集・分析力・活用力			○	○	
論文の構成力・説得力			○		

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

授業の進度に応じて必要な資料を図書館等で収集した上で出席すること。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

上記の授業計画は基本的な目安である。実際は各自の進度により異なる。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
卒業研究	〔2〕		**日**	**2**	**小野田貴夫**

キャスト：１　必修科目

Ⅰ　主題

本科における学修の成果を論文にまとめる。

Ⅱ　授業の到達目標

1.自身の関心に即して先行研究を踏まえながらテーマを設定する。
2.テーマに応じた資料収集、調査、読解、分析等の一連の研究作業を行う。
3.研究の成果を論文の形式にそって書く。

Ⅲ　授業の概要

言語学、社会言語学、日本語学、こどもの文学、宮澤賢治等に関するテーマを扱い、テーマの設定から論文の完成までの手順を解説、指導する。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1－2.　論文の基本的な構成	論文の完成までの過程を概観する
3－4.　「はじめに(テーマの設定)」	関心と先行研究との関係について
5－6.　「調査方法・結果と考察・まとめ」	論文作成の具体的な手順について
7－8.　テーマの設定	自身の関心を明確にする
9－10.　主題・問題設定とは	先行研究を踏まえた問題の立て方
11－12. 先行研究との関係	先行研究の調べ方、載せ方
13－14. 調査方法	様々な調べ方・手段について
15－16. 文献調査について	文献、論文の検索／文献による調査
17－18. インタビュー調査、質問紙調査	面接の方法／質問紙の作成方法
19－20. 結果と考察	事実の扱い方と関連付け
21－22. 事実の関連付け(体系化)	事実のまとめかた・示し方
23－24. 分析方法	印象と客観的な根拠の示し方
25－26. まとめ(論文の完成)	全体的な構成と確認
27－28. 校正と製本	製本する
29－30. 口頭発表	論文の内容を要約し、発表する

Ⅴ　使用テキスト・教材等

資料を配布する

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法／学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100		25	50	25	
テーマが設定できる		○		○	
自身の研究作業及び進捗状況を解説できる		○		○	
論文が作成できる			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

各回に配布する資料の再読と課題の実施。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
現代文書Ａ	〔1〕		**日**	**1**	**中村国男**

キャスト：１ 必修科目　　［キャリア：選］

Ⅰ　主題
基本的な文章表現力を身につける。

Ⅱ　授業の到達目標
1.テーマや分野に応じた文章が書ける。
2.論理的な表現方法を身につける。
3.読み手を意識した理解しやすい文章が書ける。

Ⅲ　授業の概要
この授業では、現代で必要とされる基本的な文章表現力を身につけることを目的とする。学術論文・レポートの作成やプレゼンテーションの作成など文書作成の実例を通して、文書とその表現について学習する。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. どうしたらすらすら書けるのか	思ったとおり、感じたとおりに書いてはいけない！
2. こうしたらすらすら書ける	小中学生の文章を大学生レベルに変えよう
3. 伝えるだけでは終わらない	人をイベントに呼び込む文章を作ろう
4. 大人らしい語彙力の案内文を	スタイルと語彙を選んだ大人の案内文に挑戦
5. 誤解なく伝える説明文1	誤解されては困る文として料理レシピを分析
6. 誤解なく伝える説明文2	折り鶴などの折り紙の折り方文に挑戦しよう
7. 間違いではないが読みにくい文	「、」は何のために、文のどこに打つのか？
8. だらだら続く読みにくい文	段落は何のために、文章のどこで改めるのか？
9. 気になる言い回し	まかり通ると恐ろしい、誤った言い回し
10.普通の表現を高度な表現に	ちょっとの工夫で大人っぽい格調高い表現に
11.文章リフォームの実際	新聞の読者投稿文をリフォームしてみよう
12.書き手の作戦を読み取ろう	時間の順ではない、最も効果的な順番で
13.原稿用紙の使い方	レポート、卒論をきちんと書けるようにしよう
14.まとめ1	最近の話題を踏まえ、投稿文を書いてみよう
15.まとめ2	前回作成の文を回し読みした後にリフォーム

Ⅴ　使用テキスト・教材等
文章作成一歩前　　小野田貴夫　　篠原印刷所出版部

Ⅵ　参考書・参考資料
適宜授業で指示する

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100		70		30	
テーマや分野に応じた文章が書ける		○		○	
論理的な表現方法を身につける		○		○	
読み手を意識した理解しやすい文章が書ける		○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
日頃から多様な文章表現に触れ、その違いを意識すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
現代文書Ａ	〔1〕		**日**	**1**	**那珂元**

キャスト：１ 必修科目　　［キャリア：選］

Ⅰ　主題

基本的な文章表現力を身につける。

Ⅱ　授業の到達目標

1.テーマや分野に応じた文章が書けるようになる。
2.論理的な表現方法を身につける。
3.読み手を意識した理解しやすい文章が書ける。

Ⅲ　授業の概要

この授業では、現代で必要とされる基本的な文章表現力を身につけることを目的とする。
学術論文・レポートの作成やプレゼンテーションの作成など文書作成の実例を通して、
文書とその表現について学習する。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	表現の意図とメッセージ(1)	様々なジャンルの表現の目的や意図を理解する
2.	表現の意図とメッセージ(2)	要旨を読み取る・要旨をまとめる
3.	伝えるテーマの選択(1)	「私」が伝えたいこと・「私」に求められていること
4.	伝えるテーマの選択(2)	場面に応じた言葉のきまり
5.	内容のまとめ方(1)	a.意味を明確にすることと曖昧にすること
6.	内容のまとめ方(2)	b.文法に沿っていることと省略
7.	内容のまとめ方(3)	c.言葉以外の意味または効果
8.	表現手段について(1)	a.話言葉と書き言葉の違いについて
9.	表現手段について(2)	b.話し言葉で書くことについて
10.	表現手段について(3)	c.書き言葉で書くことについて
11.	表現手段について(4)	d.会話と物語の基本概念・説明するとは何か
12.	「私」のストーリーを作る(1)	キャスト制と「私」のストーリーについて
13.	「私」のストーリーを作る(2)	未来の「私」を描く
14.	文章の添削	グループワークによる添削
15.	まとめ	まとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等

文章作成一歩前　　小野田貴夫　　篠原印刷所出版部

Ⅵ　参考書・参考資料

コクヨの5ステップかんたんロジカルシンキング　　下地寛也　　中経出版

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	75		15	10	
テーマや分野に応じた文章が書ける	○		○	○	
論理的な表現方法を身につける	○		○	○	
読み手を意識した文章が書ける	○		○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

日ごろから多様な文章表現に触れ、その違いを意識すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
現代文書Ｂ	〔1〕		**日**	**1**	**小野田貴夫**

キャスト：１ 必修科目

Ⅰ 主題

基本的な文章読解力を身につける。

Ⅱ 授業の到達目標

1.批評文・論述文の論点を指摘できる
2.文章の内容について要約できる。
3.要約内容を周囲が理解できる表現で発表できる。

Ⅲ 授業の概要

受講者は、順番にそって、およそ節に当たる単位で読み進め、その場で論点を明確にし、内容の要約、発表を行う。その後、他の受講者と内容について意見交換を行い、疑問点や課題を取り出す。この行程を繰り返し、二章分ほど進めたところで、その個所全体を振り返り、受講者全員で議論を行う。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1. 授業の進め方について	担当の順番と発表内容のまとめ方
2. 第１章 つながらない身体のさみしさ(前半)	読み・論点の抽出・要約・発表・意見交換
3. 第１章 つながらない身体のさみしさ(後半)	読み・論点の抽出・要約・発表・意見交換
4. 第２章 つながりすぎる身体の苦しみ	読み・論点の抽出・要約・発表・意見交換
5. 第１～2 章についての議論	ディスカッションによる課題抽出と結論の導出
6. 第３章 仲間とのつながりとしがらみ(前半)	読み・論点の抽出・要約・発表・意見交換
7. 第３章 仲間とのつながりとしがらみ(後半)	読み・論点の抽出・要約・発表・意見交換
8. 第４章 当事者研究の可能性	読み・論点の抽出・要約・発表・意見交換
9. 第３～4 章についての議論	ディスカッションによる課題抽出と結論の導出
10.第５章 つながりの作法(前半)	読み・論点の抽出・要約・発表・意見交換
11.第５章 つながりの作法(後半)	読み・論点の抽出・要約・発表・意見交換
13.第６章 弱さは終わらない(前半)	読み・論点の抽出・要約・発表・意見交換
14.第５～6 章についての議論	ディスカッションによる課題抽出と結論の導出
15.まとめ	

Ⅴ 使用テキスト・教材等

つながりの作法　同じでもなく　違うでもなく　　綾屋紗月,熊谷晋一郎　　日本放送出版協会　　2010

Ⅵ 参考書・参考資料

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%		40	40	20	
論点を指摘できる		○		○	
内容を要約ができる		○		○	
要約をわかりやすく発表できる			○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

前回の扱った個所の要約を改めて行い、次回扱う個所を事前に読み語彙の確認や文脈を確認しておくこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
現代文書Ｂ	**〔1〕**		**日**	**1**	**宮本淳子**

キャスト：１　必修科目

Ⅰ　主題

基本的な文章読解力を身につけるために、
1つの作品を通して他者との意見交換をしながら、作品鑑賞・作品理解の手法を学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標

1.批評文・論述文を的確に理解できる。
2.文章の内容について要約できる。
3.要約内容を周囲が理解できる表現で発表できる。

Ⅲ　授業の概要

最初に、講義の形式で、批評・論述の実践例を示す。次に、担当者を決め、『人間の基本』を複数のパートに分けながら、、自らの読解の内容を発表する。これについて討議を行い、発表と討議を踏まえて、全員が各々小レポートを作成する。これを繰り返す。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.　授業概要説明	『人間の基本』について・授業の進め方
2.　要約・テーマ設定	要約の作成手法と討議手法の提示
3.　演習・自身の「読解」発表	発表・討議・小レポート作成「乗り越える力」①
4.　演習・自身の「読解」発表	発表・討議・小レポート作成「乗り越える力」②
5.　演習・自身の「読解」発表	発表・討議・小レポート作成「人としての常識」①
6.　演習・自身の「読解」発表	発表・討議・小レポート作成「人としての常識」②
7.　演習・自身の「読解」発表	発表・討議・小レポート作成「物事の両面」①
8.　演習・自身の「読解」発表	発表・討議・小レポート作成「物事の両面」②
9.　演習・自身の「読解」発表	発表・討議・小レポート作成「プロの仕事とは」①
10. 演習・自身の「読解」発表	発表・討議・小レポート作成「プロの仕事とは」②
11. 演習・自身の「読解」発表	発表・討議・小レポート作成「ほんとうの教養」①
12. 演習・自身の「読解」発表	発表・討議・小レポート作成「本当の教養②」
13. 演習・自身の「読解」発表	発表・討議・小レポート作成「老・病・死」
14. 演習・自身の「読解」発表	発表・討議・小レポート作成「人間の基本」
15. まとめ	事前に課題を示し、教室レポートを作成

Ⅴ　使用テキスト・教材等

人間の基本　　曽野綾子　　新潮社　　2012

Ⅵ　参考書・参考資料

必要に応じて授業内で指示する

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	30	30		40	
要約力の習得		○		○	
内容についての説明能力	○	○		○	
他者の意見への対応能力	○	○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

担当者以外にも、毎回要約の提出を求める。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業で扱う作品内容は、その主張に共感する部分・反する部分があるはずである。授業を通して、その感情を感覚的ではなく、根拠を示し、論理的に説明できるようになりましょう。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
日本文学概説	**2**		**日**	**1**	**瀬戸宏太**

キャスト：1 必修科目　　［教職：必］

Ⅰ 主題
国文学史の知識をつけつつ、研究対象としての日本文学の面白さを概観する。

Ⅱ 授業の到達目標
1.一つ一つの作品に、進んで関心を持つことができる。（文学への関心の深化）
2.作品ごとに異なるアプローチの仕方を理解できる。（文学研究の方法に習熟）
3.それぞれの作品を自分なりに捉えることができる。（主体的な判断力の醸成）

Ⅲ 授業の概要
古代から近現代にかけて、代表的な作品を一つずつ取り上げながら、その魅力を考えていく。国文学史的な基礎知識がつくようにも配慮し、作品は時代順に取り上げる。

Ⅳ 授業計画と内容
一回ごとに話を完結させ、国文学研究の多様なアプローチの仕方に幅広く触れていく。

項目	内容
1. 古事記	神話・伝承の世界。文字以前の文学の文学的な迫力を読む。
2. 万葉集	歌と歌を取り巻く社会。文学の鑑賞と時代背景について。
3. 土佐日記	歌と時間と自照性。文学の本流と裾野の広がりの関係。
4. 枕草子	散文的な文学作品の地平。時代を超えた美意識の生成過程。
5. 源氏物語	物語のまなざしの行方。現実に働きかける虚構の醍醐味。
6. 今昔物語集	説話の内容と主題。文学における分かりやすさの意義。
7. 平家物語	歴史叙述と文学表現。事実の面白さと語り方との相乗効果。
8. 徒然草	変動する時代の価値観。「古典に学ぶ」姿勢を問い直す。
9. 世間胸算用	教養と庶民意識。文学の反社会性とそれを受容する土壌。
10. おくのほそ道	座の文芸から虚構へ。文学作品にとっての様式美の考察。
11. 舞姫	擬古文の世界。新しい価値観との文学的な出会い。
12. こころ	近代との邂逅と葛藤。日本文学が新たに抱えた主題と課題。
13. 歯車	作者と作品の距離と交点。作家論・作家研究の可能性。
14. 風立ちぬ	現代によみがえる美しい日本。多様な批評と新しい読み方。
15. 二流の人	戦後の文学を論ずるということ。研究と批評の狭間。

Ⅴ 使用テキスト・教材等
日本文学自分流　瀬戸宏太　篠原印刷所出版部　2014

Ⅵ 参考書・参考資料
日本古典文学大辞典　岩波書店
日本近代文学大事典　講談社
新潮日本文学辞典

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	45	10		45	
文学への関心の深化	○	○		○	
文学研究の方法に習熟	○			○	
主体的な判断力の醸成	○	○		○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
それぞれの作品の概要について、文学辞典等を参照しながら理解を深めること。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
授業態度に難のある者には退室を求め、欠席扱いとする。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
日本文学基礎演習	〔2〕		日	1	**中村国男**

キャスト：1　必修科目　　［教職：必］

Ⅰ　主題

文学作品について基本的な読解や鑑賞のための方法を身につけ、その内容について議論できる。

Ⅱ　授業の到達目標

1.基本的な読解・鑑賞に必要とされる方法及び能力を身につける。
2.理解した内容や疑問点を簡潔にまとめて発表できる。
3.作成された資料をもとに論文作成及び議論ができる。

Ⅲ　授業の概要

日本屈指の文豪、夏目漱石の青春小説「三四郎」を,ストーリー、登場人物像、作品構成、時代背景など、多角的に考察する。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.　概説	夏目漱石について知っていること
2～3.　p　5～ 24	第1章
4～5.　p 24～ 40	第2章
6～8.　p 40～ 75	第3章
9～11.　p 76～122	第4章
12～13. p123～150	第5章
14.　p150～164	第6章前半
15.	前半のレポート作成
16～17. p164～190	第6章後半～第7章前半
18.　p190～206	第 7 章後半
19～20. p206～236	第8章
21～22. p236～263	第9章
23～24. p263～287	第10章
25～26. p287～310	第11章
27～28. p310～337	第12章～第13章
29.	後半のレポート作成
30.	最終レポート作成

Ⅴ　使用テキスト・教材等

三四郎（新潮文庫）　夏目漱石　新潮社

Ⅵ　参考書・参考資料

かなり多くの参考文献があるので積極的に読むことが望ましい。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	30	40		30	
基本的読解鑑賞の意欲・能力	○	○		○	
発表	○	○			
論文・議論	○	○			

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

2 回目からレポーターは必ず難解な語句の意味や、読解上のポイントなどについて発表できるようにしておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

第 1 回の授業の前に「三四郎」を1回は読んでおくことが望ましい。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
日本文学基礎演習	〔2〕		日	1	**瀬戸宏太**

キャスト：1 必修科目　　［教職：必］

Ⅰ　主題

文学作品について基本的な読解や鑑賞のための方法を身につけ、その内容について議論できる。

Ⅱ　授業の到達目標

1.基本的な読解・鑑賞に必要とされる方法及び能力を身につける。
2.理解した内容や疑問点を簡潔にまとめた資料（レジュメ等）が作成できる。
3.作成された資料をもとに発表及び議論ができる。

Ⅲ　授業の概要

源氏物語若紫巻を読む。演習科目なので、授業では順番に発表、司会を担当してもらう。テキストは影印本で、発表者には授業の前半に、翻字、注釈、現代語訳、及び簡潔な鑑賞の報告をしてもらう。後半はそれらを踏まえて、司会者を中心に全員で討論をする。受講者の意欲次第で展開は大きく変わるだろう。難しく考えるには及ばないが、積極的な姿勢が必要である。

Ⅳ　授業計画と内容

受講者数を 12 名と仮定。人数が異なる場合は調整し、一人あたりの発表機会を 3 回としたい。

	項　目	内　容
1.	源氏物語について	源氏物語のあらすじ、作中人物の系図など。
2.	若紫巻冒頭の諸問題	テキスト1ページ目の翻字と解説。
3.	翻字の練習（1）	翻字のしかたの指導。受講者が分担して翻字。
4.	源氏物語の解釈（1）	前回受講者が翻字をしてみた部分の解説。
5.	源氏物語の音読と鑑賞	前回解説した部分を音読し、内容を討論する。
6.	翻字の練習（2）	受講者が分担して翻字をしてみる練習の二回目。
7.	源氏物語の解釈（2）	前回翻字をした部分の解説。発表への導入。
8-14.	発表（1）－（7）	1回あたり2名ずつ発表。
15.	前期まとめ	まとめの小テスト。
16.	ここまでの展開について	夏休み後の導入。
17-27.	発表（8）－（18）	1回あたり2名ずつ発表。
28.	後期まとめ	まとめの小テスト。
29.	若紫巻の終盤をめぐって	発表でやり終わらなかった部分の翻字と解説。
30.	源氏物語とは何か	全体のまとめ。源氏物語をどう理解するか。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

青表紙本源氏物語若紫　岡一男編　新典社

Ⅵ　参考書・参考資料

新編日本古典文学全集　小学館
新日本古典文学大系　岩波書店
新潮日本古典文学集成　新潮社

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100		30	30	40	
基本的な読解・鑑賞に必要な能力		○	○		
理解した内容・疑問をまとめた資料作成			○	○	
資料をもとに発表及び議論ができる			○	○	
作品世界に深く興味を持つことができる		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

自分が発表者でない時も、注釈書等を参照して内容の把握に努めること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

発言が皆無であるなど、授業態度に積極性が認められない者は、欠席扱いとする。成果発表として、年度末にレポートを課す。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
日本文学基礎演習	〔2〕		日	1	**小野田貴夫**

キャスト：1　必修科目　　［教職：必］

Ⅰ　主題

文学作品について基本的な読解や鑑賞のための方法を身につけ、その内容について議論できる。

Ⅱ　授業の到達目標

1.基本的な読解・鑑賞に必要とされる方法及び能力を身につける。
2.理解した内容や疑問点を簡潔にまとめた資料（レジュメ等）が作成できる。
3.作成された資料をもとに発表及び議論ができる。

Ⅲ　授業の概要

宮澤賢治の詩、物語を各回で取り上げる。その回の作品について、順番で決められた担当者が事前に作成してきたレジュメにそって解説し、その後、参加者全員で議論しながら読みを深めて行く。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1－2.　演習の進め方について	発表者の順番を決める／発表の手順を解説
3－4.　宮澤賢治について	生い立ち、思想、作品の概要解説
5－6.　『注文の多い料理店』出版までの過程	作品の成立過程や出版にまつわるエピソード
7－8.　どんぐりと山猫／狼森と笊森、盗森	発表と議論、解説
9－10.　注文の多い料理店／鳥の北斗七星	発表と議論、解説
11－12. 水仙月の四日／山男の四月	発表と議論、解説
13－14. かしわばやしの夜／月夜のでんしんばしら	発表と議論、解説
15－16. 鹿踊りのはじまり	発表と議論、解説
17－18.『注文の多い料理店』についての評価	議論と解説
19－20.『心象スケッチ　春と修羅』の出版過程	作品の成立過程や出版にまつわるエピソード
21－22.『春と修羅』の序	発表と議論、解説
23－24. 屈折率／くらかけの雪／日輪と太市	発表と議論、解説
25－26. コバルト山地／恋と熱病	発表と議論、解説
27－28. 春と修羅	発表と議論、解説
29－30. 陽ざしとかれくさ／雲の信号	発表と議論、解説

Ⅴ　使用テキスト・教材等

注文の多い料理店（角川文庫クラシックス）　宮沢 賢治　角川書店
新編 宮沢賢治詩集(角川文庫)　宮沢 賢治　角川書店

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法／学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100		25	50	25	
作品のテーマ設定・問題設定ができる		○	○		
資料（レジュメ等）が作成できる。		○	○	○	
発表及び議論ができる。			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

レジュメの作成。次回の作品の読解。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

積極的に議論に参加すること。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
歌謡と詩歌		**2**	**日**	**2**	**中村国男**

キャスト：２ 文学の世界に遊ぶ

Ⅰ 主題

歌として有名な作品を詩の面から考察することによって、日本人の心を探る。

Ⅱ 授業の到達目標

1.取り上げる有名な詩を考察し、味わい直すことができる。（文学への関心の深化）
2.複数の詩における題材や心情の表現の違いを考察できる。（文学研究の方法に習熟）
3.ポップスなどの現代の歌を詩として楽しめるようになる。（文学的生活姿勢の獲得）

Ⅲ 授業の概要

日本古謡、民謡、童謡、文部省唱歌、歌曲、演歌、歌謡曲、ポップスまで、古典、近代、現代の歌謡や詩歌を味わいつつ、季節や身近な人に寄せる日本人の心を探る。毎回3～4作品を取り上げる。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	授業概要説明	モデル教材による授業の受け方体験　赤とんぼ他
2.	春の歌謡と詩歌1	桜はこのように歌われてきた　さくら、花他
3.	春の歌謡と詩歌2	春は早くと待ち望まれた季節　小諸なる古城のほとり他
4.	夏の歌謡と詩歌1	海の味わいは時代とともに　われは海の子、浜辺の歌他
5.	夏の歌謡と詩歌2	夏の思い出はどんな思い出　夏の思い出他
6.	秋の歌謡と詩歌1	秋はしみじみ人想う季節　刈干切唄、秋の山唄他
7.	秋の歌謡と詩歌2	静かな秋は人の心を研ぎ澄ます　ちいさい秋みつけた他
8.	冬の歌謡と詩歌1	雪はこのように歌われてきた　雪、冬の夜他
9.	冬の歌謡と詩歌2	寒い冬には心を温めよう　ペチカ、雪の華他
10.	愛の歌謡と詩歌	親子を結ぶ愛の歌　かあさんの歌、ああ上野駅他
11.	別れの歌謡と詩歌	悲しい別れは名歌名曲の宝庫　さくら貝の歌他
12.	恋の歌謡と詩歌	古今ラブラブの歌　最上川舟唄、永遠にともに他
13.	クリスマスの歌謡と詩歌	日本にもありますクリスマスソングス　クリスマスイブ他
14.	人生の歌謡と詩歌	人生とは何か　最後に学ぶ感動の3曲　ふるさと他
15.	レポート作成	ヒントなしで、指定されたポップスの歌詞論を作成

Ⅴ 使用テキスト・教材等

適宜プリントを用意する。

Ⅵ 参考書・参考資料

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 ／ 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	25	45		30	
文学への関心の深化	○	○		○	
文学研究の方法に習熟	○	○			
文学的生活姿勢の獲得	○	○			

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

授業の最後に次回で扱う詩歌を予告するのでインターネット等で視聴して授業に臨むこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

ジャンルにとらわれず、積極的に詩歌・歌謡に親しむこと。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
作家と時代		**2**	**日**	**1**	**瀬戸宏太**

キャスト：２　文学の世界に遊ぶ

Ⅰ　主題

作家が時代の空気を吸い込みながら、時代を越えた作品を創る機制を追求する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.文学作品を創出する作家という存在に興味を持てる。（文学への関心の深化）
2.作家と時代との関係を考える手続きを理解できる。（文学研究の方法に習熟）
3.自分たちの時代へと視線を向け直すことができる。（文学研究の方法の応用）

Ⅲ　授業の概要

時代の異なる、著名な三人の作家を順番に取り上げて、その時代との関わりを考えていく。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	芥川龍之介（1）	時代背景。自然主義から白樺派の時代へ。
2.	芥川龍之介（2）	初期の創作態度と夏目漱石の絶賛。
3.	芥川龍之介（3）	私小説への懐疑と自身の血に対する不安。
4.	芥川龍之介（4）	関東大震災を経て。他者から見た作家の横顔。
5.	芥川龍之介（5）	自殺まで。作家にとっての時代と芸術。
6.	芭蕉（1）	背景としての庶民の文芸の興隆。
7.	芭蕉（2）	俳人としての志と現実との隔たりをめぐって。
8.	芭蕉（3）	わび・さびとは何であったか。
9.	芭蕉（4）	旅と時代。同世代との交流の意味。
10.	芭蕉（5）	かるみを考える。時代を超える手掛かり。
11.	紫式部（1）	平安時代における女流文学の意味。
12.	紫式部（2）	女性と仏教。そして源氏物語と仏教。
13.	紫式部（3）	紫式部日記から。ライバル清少納言説の再考。
14.	紫式部（4）	准拠という「時代」。源氏物語にとっての「歴史」。
15.	紫式部（5）	千年の時間を越えて読み継がれるということ。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

適宜プリントを用意する。

Ⅵ　参考書・参考資料

日本古典文学大辞典　岩波書店
日本近代文学大事典　講談社
新潮日本文学辞典

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100		30	40	30	
文学への関心の深化		○	○	○	
文学研究の方法に習熟		○	○		
文学研究の方法の応用		○	○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

取り上げる三人の作家については、ある程度の予備知識を持っていることが望ましい。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業態度に難のある者には退室を求め、欠席扱いとする。成果発表として、期末にレポートを課す。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
日本文学と世界		**2**	**日**	**2**	**平井修成**

キャスト：２ 文学の世界に遊ぶ

Ⅰ 主題

明治期、初めて欧米の文学に触れて衝撃を受けた、日本の文学者達。彼等と彼等の後に続く者たちが、その影響を消化しつつ、自らの主題を取り戻して行く過程を概観する。

Ⅱ 授業の到達目標

1.幕末～明治初期にかけて生じた日本の文芸思潮の混乱を、理解することができる。
2.近代文学の特徴を、世界と日本の文学の実例に則して、理解することができる。
3.現代文学の特徴を、世界と日本の文学の実例に則して、理解することができる。

Ⅲ 授業の概要

幕末から現代まで、時代を追いながら、日本文学が欧米の文学とどのように出会い、影響され、そして独自の文学的世界を創り上げていったのか。主に、小説と小説に関わる理論を中心に、考えていきます。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	明治開化期文学の世界①	『西洋道中膝栗毛』の好奇心
2.	明治開化期文学の世界②	『牛店雑談安愚楽鍋』の批判精神
3.	明治開化期文学の世界③	『著作道書キ上ゲ』の思想
4.	近代文学の誕生①	坪内逍遙の人生
5.	近代文学の誕生②	坪内逍遙『小説神髄』の文芸理論1
6.	近代文学の誕生③	坪内逍遙『小説神髄』の文芸理論 2
7.	近代的自我の主題①	『舞姫』『蒲団』『破戒』が描いたもの1
8.	近代的自我の主題②	『舞姫』『蒲団』『破戒』が描いたもの2
9.	人間を捉える方法論①	ゾライズムと永井荷風、小杉天外
10.	人間を捉える方法論②	ゾライズムの破綻と永井荷風作品
11.	現代文学の思想①	アンドレ・ジッドと純粋小説
12.	現代文学の思想②	石川淳の文芸理論1
13.	現代文学の思想③	石川淳の文芸理論2
14.	よみがえる日本文学	よしもとばななを中心に
15.	まとめ	文学が文学である為に

Ⅴ 使用テキスト・教材等

随時プリントを用意する

Ⅵ 参考書・参考資料

随時指示する

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	70	20			
幕末～明治初期の文芸思潮の理解	○	○			
近代文学の特徴の理解	○	○			
現代文学の特徴の理解	○	○			
理解し、主体的に考えようとする姿勢				○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

自分にとって魅力的な小説が見つかったら、それが何故魅力的なのか、理由を考えて見ること。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
日本文学演習		〔2〕	日	2	**尾崎富義**

キャスト：２　文学の世界に遊ぶ　　［教職：選］

Ⅰ　主題

『古事記』を読むことによって、日本の神話、古代の信仰を理解する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.『古事記』を読むことによって、古代文学のカタリの様式、言葉の意味が理解できるようになる。
2.『古事記』を理解することによって、神話のもつ意味を考察できる。
3.『古事記』に関する知識を利用して、日本の古代文化の理解に応用できる。

Ⅲ　授業の概要

担当部分をしっかり読む。演習と講義が半々になる。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1～3.	解題と序文	・神話とは何か、古伝承とその意義、『古事記』撰録の意図と完成。
4～7.	創生神話	・イザナギとイザナミの誕生と聖婚、国生み・神生み神話。
8～10.	黄泉の国訪問神話	・死の国とは、死とケガレ、ミソギの意味、三貴子の誕生と分治。
11～12.	スサノオの追放	・神を追放する意味、日本の神の原像。
13～14.	真名井の誓約神話	・天孫族と海人系氏族の誕生、カタリの様式。
15～16.	アマテラスの石屋戸ごもり	・スサノヲの乱暴、石屋戸ごもりの意味、天皇即位の呪儀、冬至の神話化。
17～18.	スサノヲのオロチ退治	・オロチ形象の意味、クシナダヒメとの聖婚、八雲立つ出雲。
19～20.	オオクニヌシと出雲神話	・オオクニヌシの神格、根の国と出雲。
21.	オオクニヌシと因幡の白兎	・白兎神話の意味、比較神話。
22～23.	ヤチホコカミの妻問い	・オオクニヌシの神格と妻問い。
24～30.	国譲り神話	・アメノホヒとアメワカヒコの派遣、タケミカヅチの征圧、タケミナカタの追放、オオクニヌシの国譲り。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

古事記（上）（講談社学術文庫）　次田真幸　講談社

Ⅵ　参考書・参考資料

『古事記註釈』（全4巻）　西郷信綱　平凡社

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 ／ 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100		60	20	20	
上代語の理解		○	○	○	
日本神話の理解		○	○	○	
日本古代文化の理解		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

事前にテキストをしっかりと読み込んで、不明な点については注釈書類で調べておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業に関係のない私語は慎むこと。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
漢文学		**2**	**日**	**2**	**繁原央**

キャスト：3 文学を究めるヒント　［教職：必］

Ⅰ 主題
日本人の教養の基礎にある漢文について学び、日本文化の理解を深める。

Ⅱ 授業の到達目標
1.漢文の基礎的知識を学び、その内容について理解ができるようになること
2.故事成語の漢文を読解でき、その内容について考察できること
3.漢文学の歴史と日本文化への影響について学び、概説できること

Ⅲ 授業の概要
故事成語は現代にも生きている。その出典を探るとほとんどが中国古代の古典である。論語、孟子、荘子、韓非子などを出典とする故事成語を紹介するので、その文を読むことで漢文に親しみ、日本語と構造を異にする漢文の読解ができるようになってほしい。その訓読という読解方法は、平安時代以来千年にわたって築いてきた日本の文化である。訓読の原則を身に着けてもらいたい。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	はじめに	漢文学とは何かについての概説
2.	漢文の歴史	中国の漢文の歴史を概述する
3.	儒教とその典籍	論語を中心に儒学の考え方の説明
4.	訓読の仕方	漢文訓読の基礎
5.	漢語の構造	日本で使っている二字熟語の構造
6.	漢字の音訓	日本における漢字の読み方の多さの由来
7.	五十歩百歩	出典である孟子から考える
8.	渾沌、守株	荘子と韓非子を読む
9.	漁父の利	戦国策という書
10.	四面楚歌	歴史書の名作・史記
11.	三顧の礼	十八史略と出師の表
12.	七歩の才	世説新語という逸話集
13.	朝三暮四	列子と荘子の内容の違い
14.	四六駢儷文	李白「春夜桃李園に宴する序」を読む
15.	古文	韓愈「雑説」を読む

Ⅴ 使用テキスト・教材等
漢文の語法と故事成語　吹野　安編　笠間書院　2008

Ⅵ 参考書・参考資料
新釈漢文大系　明治書院
全釈漢文大系　集英社

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　）
配点比率(%)　合計 100	50	20		30	
漢文訓読の理解	○	○		○	
故事成語の読解	○			○	
漢文の背景についての理解	○			○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
復習を重視したい。習った故事成語の文を声を出して読み、訓読してみる。出典の古典を通読するなど。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
他の参考文献は授業時に指示する。教職必修科目

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
書道		〔2〕	日	1	**大高昇**

キャスト：３ 文学を究めるヒント　　［教職：必］

Ⅰ　主題

小・中学校国語科で扱う書写教育の領域を身につける。

Ⅱ　授業の到達目標

1.用具・用材、基本点画、用筆法、運筆法、書体を理解し、理論と実技ができるようになる。
2.書写と書道について学び、文字教育について考察できる。
3.さらに書道理論・実技の知識を利用して応用できるようになる。

Ⅲ　授業の概要

書写と書道を理解して文字教育について考察する。

Ⅳ　授業計画と内容

この授業は、書写・書道の基本的な知識と実技の実践で体得する。

項　目	内　容
1.　文字とその成立	文字と文化について説明する。
2.～ 3.　文字の種類	漢字が出現するまでを説明する。
4.～ 5.　書体の種類Ⅰ	甲骨文、金文、篆書、隷書について説明する。
7.～ 9.　書体の種類Ⅱ	草書、行書、楷書について説明する。
10.～12.　仮名	日本の文字である平仮名、片仮名についての考察をする。
13.　字体・書体・書風	書道用具について説明する。
14.～16.　書写の基本	姿勢、執筆法について説明する。
17.～18.　文房四宝	筆、墨、硯、紙について説明する。
19.～20.　年賀状、干支	実用書道について季節的な内容で役に立つ学習をする。
21.～25.　書道史	日本・中国の書道史を学ぶ。（作者、作品を深く考察する）
26.～27.　臨書	有名な古典を手本として学ぶ(ビデオを含む)
28.～29.　書写教育	書写が文字教育に占める役割について学ぶ。
30.　まとめ	書写教育と書道教育の比較をして考察する。
定期試験	筆記試験

Ⅴ　使用テキスト・教材等

大学書写・書道教育　　書写書道教育教材研究会編　　第一法規

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 ／ 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　）
配点比率(%)　合計 100%	50	15	15	20	
書道の理解	○	○	○	○	
書作品の知識及び技術			○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

次回の授業範囲を予習し、書道用語の意味等を理解しておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

履修上の注意：必ず毎回書道の道具を持参すること。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
日本語概説		**2**	**日**	**1**	**竹腰幸夫**

キャスト：３ 文学を究めるヒント ［教職：必］

Ⅰ 主題

この授業では、日本語の特質とその機能を深く理解することによって、日本語・日本文学を学ぶ上での基礎を固めるとともに、より良いコミュニケーションの理論と実践的な技術を習得する。

Ⅱ 授業の到達目標

1.人における「言葉」「言語表現」とは何なのかを考える。
2.「日本語」表現の特性・特質を理解する。
3.「コミュニケーション」の意味を考え、実践に結び付けることが出来る。

Ⅲ 授業の概要

毎回 300 字程度の小レポートを書く。①授業内容のまとめ ②意見 ③疑問 ④感想 をその内容とする。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	人間にとって言語とは何か	「言語」の出発点
2.	言葉の力(1)その発生	聖書「太初に言葉ありき」・ナイチンゲールの方法
3.	言葉の力(2)その認識	仏陀「四苦八苦」の人間認識
4.	言葉の力(3)その様相	科学「人文科学」の考え方
5.	言葉の力(4)その生命	言葉の奥行・二面性（普遍性・特殊性）
6.	芸術としての言語世界	ホモ・ルーデンスの言葉世界
7.	日本語の特質(1)その優しさ	「いろはうた」
8.	日本語の特質(2)その奥深さ	「愛」と「哀」
9.	日本語の特質(3)その柔らかさ	「以心伝心」
10.	日本語の特質(4)その豊かさ	「敬語」と「敬意」
11.	日本語の特質(5)その実践	相手との距離感
12.	漢字の構成と機能(1)	漢字は覚えるな、理解せよ
13.	漢字の構成と機能(2)	豊かな漢字ワールド
14.	より良いコミュニケーションのために	ラブレターの書き方
15.	高い理想と笑顔の人生のために	まとめ
	定期試験	筆記試験

Ⅴ 使用テキスト・教材等

新改訂・日本語 ： 理解と表現　竹腰幸夫　いろは出版

Ⅵ 参考書・参考資料

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　）
配点比率(%)　合計 100	20	70		10	
日本語の特質・特性の理解	○	○		○	
コミュニケーションの意味と実際を考える	○	○		○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

言語は日常生活の中で、自覚・反芻・反省・認識・練磨される。日々の言語生活に鋭敏であることを望みたい。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

・成績評価の補足：5 分の 4 以上の出席が単位認定条件である。小レポートの評価は A/B/C と D（出席とは認めない）の 4 段階評価とし、評価基準は開講時に示す。
・携帯電話等の使用は、辞書機能等の利用を含めて一切禁止。ご協力をお願いする。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
日本文学史		**2**	**日**	**1**	**中村国男**

キャスト：３　文学を究めるヒント　　［教職：必］

Ⅰ　主題

前期必修科目である「日本文学概説」を踏まえ、そこで扱わなかった作品を具体的に読み味わいながら、文学の面白さを味わい、歴史的な意義を考察する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.各作品の名場面を通して日本文学への関心を持つことができる。（文学への関心）
2.時代や作者の生涯など、作品の背景を踏まえた読解ができる。（文学研究の方法理解）
3.それぞれの作品の文学史上の価値に自分なりの評価ができる。（主体的判断力）

Ⅲ　授業の概要

平安時代から昭和まで、代表作を2回ずつ扱う。高校の古典や日本史で学習するような単なる知識としての文学史ではない。「これぞこの時代の問題作」と呼べる作品に的を絞り、本文に実際に目を通して、それらの作品がどのように「時代の証言」と呼ぶに値するものとなっているかを考察する。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. はじめに	日本文学史への関心・知識の確認
2. 中古（平安）文学1	藤原家の隆盛と「大鏡」
3. 中古（平安）文学2	藤原家の隆盛と「大鏡」
4. 中世文学1	平家の興亡と「方丈記」
5. 中世文学2	平家の興亡と「方丈記」
6. 近世文学1	江戸文化の展開と「東海道中膝栗毛」
7. 近世文学2	江戸文化の展開と「東海道中膝栗毛」
8. 明治文学1	近代社会の壁と森鷗外「阿部一族」
9. 明治文学2	近代社会の壁と森鷗外「阿部一族」
10. 大正文学1	大正ロマンの時代と川端康成「伊豆の踊子」
11. 大正文学2	大正ロマンの時代と川端康成「伊豆の踊子」
12. 昭和文学1	戦争を問う　吉村昭「背中の勲章」
13. 昭和文学2	戦争を問う　吉村昭「背中の勲章」
14. 昭和文学3	花開く大衆文学　石坂洋次郎「青い山脈」
15. 昭和文学4	花開く大衆文学　石坂洋次郎「青い山脈」

Ⅴ　使用テキスト・教材等

毎回プリントを用意する。

Ⅵ　参考書・参考資料

各授業で指示する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 ／ 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　　合計 100		70		30	
文学への関心		○		○	
文学研究の方法理解		○			
主体的判断力		○			

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

それぞれの作品の概要について、文学事典等を参照しながら理解を深めること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

古典の苦手な者でも十分理解できる資料で学習する。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
日本語表現法		**2**	**日**	**2**	**宮本淳子**

キャスト：１２ 生活を演出する言葉（1年生用：キャスト４） ［教職：選　プレゼン：必　キャリア：選］

Ⅰ 主題

より「伝わる」ことを意識した豊かな言葉の表現力を獲得するために、
キャッチコピーや宣伝文章などから日本語の特徴を学ぶ。

Ⅱ 授業の到達目標

1.日本語の文法的な特徴を最低3つ説明できる
2.自身の意図を反映させたキャッチコピーをつくることができる
3.制作者の視点で、商品としての「言葉」の意図や効果を説明できる

Ⅲ 授業の概要

この授業は、文法や音韻をはじめとした日本語の特徴を踏まえ、キャッチコピーや雑誌・広告などに使われている文章全般を題材に、どのようにすれば、ターゲットを意識した「伝わる」言葉を作成することができるのかを検証していく。また、自らも文章の作成することで、プレゼンテーションでも活用できるインパクトのある表現を用いる能力を習得していく。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	はじめに	授業内容紹介・日本語表現の意味
2.	母語としての日本語①	母音を主体に音声認識する言語
3.	母語としての日本語②	発音体感を活かした日本語表現・リズム
4.	日本語の正しさとは	実生活における「正しさ」の違和感
5.	伝えることへのこだわり ①	キャッチコピー・ボディーコピーの理論
6.	伝えることへのこだわり ②	キャッチコピー・ボディーコピーの実践
7.	伝えることへのこだわり ③	想像力を味方にする言葉（ラジオ CM）
8.	伝えることへのこだわり ④	J-POP 歌詞・洋楽の訳詞
9.	つなぎ言葉と順序	談話的能力について
10.	構成の手法①	例文読解による文章構成の考察
11.	構成の手法②	例文読解による文章構成の考察
12.	言葉のスタイル	「らしい」表現・「ふさわしい」表現
13.	表現の工夫①	コメント力（名言から考察）
14.	表現の工夫②	コメント力（比喩表現）
15.	まとめ	まとめ

Ⅴ 使用テキスト・教材等

適宜プリントを配布する

Ⅵ 参考書・参考資料

日本語はなぜ美しいのか　黒川伊保子　集英社新書

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	50	30		20	
日本語の特性を説明できる	○	○		○	
効果的な表現手法を理解する	○	○		○	
表現を実践できる	○	○		○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

自分の気に入ったキャッチコピーやセンスの光るキャッチコピー、ユニークなキャッチコピーなど、
注目した「広告」の言葉をメモや写真などで保存しておいてください。チラシや雑誌などは、現物を保管しておくことをお勧めします。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

授業内でコピーライターを招いたキャッチコピーのワークショップ（1回）を実施する予定である。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
創作の心理		**2**	**日**	**1**	**中村国男**

キャスト：４　作品を創り上げる

Ⅰ　主題

近代・現代の小説・随想・詩歌の名作・力作を読み、その手法を参考にして情景や心理を豊かに描く力を身に付ける。

Ⅱ　授業の到達目標

1.名作のあらすじを追うだけでなく、優れた表現に感動できる心を育てる。
2.名作の表現への理解を自分自身の文章に活かそうという意欲を持つ。
3.自分自身を見つめ、積極的な姿勢を持って、豊かな表現ができる。

Ⅲ　授業の概要

近代・現代の名作の表現を通して、豊かな情景や心理を読み、描く喜びを知る。単なる知識の獲得に終わらぬよう、教師の質問に答えたり、学生同士で意見交換したりして、授業の最後には800字程度の超短編小説を書く。

Ⅳ　授業計画と内容

近代・現代の小説や詩の名作を分析しながら、創作に対する理解を深めていく。

	項　目	内　容
1.	はじめに	授業の方針、短い描写への挑戦
2.	名作の情景描写に学ぶ1	堀辰雄　日差しや雲の表現
3.	名作の情景描写に学ぶ2	川端康成　雨や雪の表現
4.	名作の情景描写に学ぶ3	太宰治　動物の表現
5.	名作の情景描写に学ぶ4	正岡子規　植物や虫の表現
6.	名作の情景描写に学ぶ5	夏目漱石　家屋、室内、庭の表現
7.	名作の情景描写に学ぶ6	北杜夫　海、水、港町の表現
8.	名作の心理描写に学ぶ1	芥川龍之介　一喜一憂、変化する心理の表現
9.	名作の心理描写に学ぶ2	遠藤周作　不安や自己嫌悪の表現
10.	名作の心理描写に学ぶ3	島崎藤村　憎悪や敵意の表現
11.	名作の心理描写に学ぶ4	さくらももこ　ユーモアの表現
12.	名作の心理描写に学ぶ5	よしもとばなな　悲しみと癒しの表現
13.	名作の心理描写に学ぶ6	中島敦　対立する人間関係の表現
14.	名作の心理描写に学ぶ7	新美南吉　子供心の表現
15.	まとめ	リアリティのある表現を作るには

Ⅴ　使用テキスト・教材等

適宜プリントを用意する。

Ⅵ　参考書・参考資料

授業の中で次回の分を指示する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　　合計 100	30	40		30	
優れた表現に感動できる心	○	○		○	
名作の表現を活かそうとする意欲	○	○		○	
豊かな表現	○	○			

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

予習は不要だが、復習をしっかりやって、優れた表現を自分の文章に生かせるようにすること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業の最後に学習事項の確認や、超短編小説等の作成を課す。作文の苦手な者は安易に受講しないこと。
創作力を磨きたい者向きの授業である。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
文芸創作演習		〔2〕	日	2	**桜井仁**

キャスト：４ 作品を創り上げる

Ⅰ 主題

多くの和歌を鑑賞するとともに、自分の作品を作る力・他人の作品を批評する力を養う。

Ⅱ 授業の到達目標

1.和歌文学の流れを学び、和歌の歴史上の有名な作品について知る。
2.和歌の創作を通して、ものごとを見つめ、的確に表現する力を養う。
3.多くの作品を批評・鑑賞していく中で、視野を広げ、批評眼を養う。

Ⅲ 授業の概要

よい作品を作るためには、よい作品を多く味わうことから始めなければならない。授業は、和歌文学通史の講義と創作短歌の合評会とを交互に進めていく。
講義では、上代から現代までの歴史解説と名歌鑑賞を広く浅く(時には深く)見ていく。合評会では、学生の創作による短歌を歌会形式で批評していく。この時に、学生の自由な発言が必要となる。初心者にも十分理解できるように進めていくので、積極的に感想・意見を述べてほしい。正しい解釈と表現には、言葉の正しい知識が必要となるので、適宜文法や言葉の解説も行う。
また、現代歌壇の動向や各

Ⅳ 授業計画と内容

回数	内容
1-2.	短歌入門・合評会 1
3～4.	短歌の作り方・合評会 2
5～6.	上代和歌史(和歌の定義と発生、記紀歌謡)・合評会 3
7～8.	上代和歌史(万葉集)・合評会 4
9～10.	中古和歌史(古今和歌集)・合評会 5
11～12.	中古和歌史(八代集と私家集、歌合、和歌の修辞)・合評会 6
13～14.	中世和歌史(新古今和歌集、歌論)・合評会 7
15～16.	中世和歌史(十三代集と私家集、百人一首、連歌)・合評会 8
17～18.	近世和歌史(江戸前期歌壇と江戸中期歌壇、国学)・合評会 9
19～20.	近世和歌史(江戸後期歌壇、狂歌)・合評会 10
21～22.	近代短歌史(明星派とその周辺)・合評会 11
23～24.	近代短歌史(アララギ派とその周辺)・合評会 12
25～26.	現代短歌史(戦後歌壇)・合評会 13
27～28.	現代短歌史(郷土の歌人、異色の歌人、無名者の歌)・合評会 14
29～30.	これからの短歌・合評会 15

Ⅴ 使用テキスト・教材等

テキストは講師自作のプリントを使うが、必要に応じて参考文献を紹介する。

Ⅵ 参考書・参考資料

短歌をよむ	俵万智 著	岩波新書
短歌を楽しむ	栗木京子 著	岩波ジュニア新書
和歌の解釈と鑑賞事典	井上宗雄・武川忠一編	笠間書院

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100		40	50	10	
自分の短歌を創作する		○	○		
他人の短歌を批評する		○	○	○	
文法・文学史の知識を修得する		○	○		

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

常に身の回りを観察し、短歌の素材を発見するとともに、優れた多くの作品を味わうことを心掛ける。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
文章と文体		**2**	**日**	**1**	**中村国男**

キャスト：４　作品を創り上げる

Ⅰ　主題

文章の目的用途、想定する読み手、書き手の性別年齢によって文体はおのずと異なることを理解し、様々な立場の人間になりきった文章が書ける力の獲得に挑戦する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.文体というものが広範囲な概念であることを理解し、関心を持てる。
2.様々な例文を通して、それぞれの文体の効果を指摘できる。
3.目的に応じた的確で効果的な文体の文章が書ける。

Ⅲ　授業の概要

提示された例文について教師の質問に答えたり、学生同士で意見交換したりして、単なる知識ではなく実践的に文体についての認識を深めていく。題材としては手紙、実用文から小説・詩まで、幅広く扱う。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. 新聞記事の文体	記事の性格に応じてどう文体は決められる？
2. 広報誌の文体	多くの人に高感度で迎えられる文体
3. 役所などの公用文の文体	用件を無駄なく簡潔に伝える文体
4. 手紙の文体	文は人なり　人柄を最大限に発揮するには？
5. 意見文の文体1	子供・若者編　若々しさ、純粋さをアピールしたい
6. 意見文の文体2	成人編　人生の年輪を感じさせる書き味は？
7. 批評文の文体	新聞のコラムはその典型　ここまで来るとプロの書き味
8. 論文の文体1	鋭い！と思わせる表現技巧　二項対比
9. 論文の文体2	鋭い！とおもわせる表現技巧　逆説
10. 小説の文体1　描写編	鼻ひとつ取ってもこんなに多様な描き方が・・・
11. 小説の文体2　修辞編	芥川龍之介「舞踏会」に学ぶ　状況の描き方
12. 小説の文体3　人物編	芥川龍之介「舞踏会」に学ぶ　人物の描き方
13. 定型詩の文体	字数の制約が見事な文体を生み出す
14. 自由詩の文体	制約なし　だからこそ実力が問われる
15. まとめ	文体を構成する要素は何か？　総まとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等

その都度プリントを配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

なし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　　合計 100	30	40		30	
多様な文体への理解・関心	○	○		○	
多様な文体の効果指摘	○	○			
的確な文体の作文力	○	○			

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

授業最後の次回の予告をしっかり確認すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

1回の授業で何度も発言を求められるが、その分実力は付くはずである。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
マンガ文化論		**2**	**日**	**2**	**瀬戸宏太**

キャスト：５ 多彩な表現に挑戦する

Ⅰ 主題

日本語や日本文学に対するアプローチのしかたを敷延し、マンガの本質に迫る。

Ⅱ 授業の到達目標

1.マンガを改めて見直し、味わいなおすことができる。（文学への関心の深化）
2.それぞれの教員ごとに異なる方法論を理解できる。（文学研究の方法に習熟）
3.文化の一翼を担うものとしてマンガを評価できる。（新しいことへの挑戦力）

Ⅲ 授業の概要

五人の教員がそれぞれの設定した小テーマのもと、三回ずつ授業を担当して進めていく。

Ⅳ 授業計画と内容

各教員は担当期間の最後に小レポートまたは小テストを課す予定である。

A. 読者とマンガ史（瀬戸）
1. 浅い夢など見たくない　読者の力。源氏物語の普及に果たしたマンガの役割。
2. ぼくらは少年になった　成長する読者。少年誌の消長と「スポ根」の相関。
3. いとしのエリーは今？　揺れ動く読者像。マンガにおける新しさと類型性。

B. マンガを読む ～視聴メディアとしてのマンガ～
4. マンガの成り立ち　視覚メディアとしてのマンガの誕生とその変遷
5. マンガの視覚的文法　連続した視覚的フォーマットとしてのマンガ・コミックの表現方法
6. マンガは芸術か消費文化か？　グローバルな視点からみるマンガとコミック

C. さくらももこの世界「ちびまる子ちゃん」を分析する（中村）
7. 自己表現としてのマンガ　ネタをどこに求めるか
8. 語って聴かせるマンガ　1ページの駒数と文字数に注目しよう
9. コミック本とテレビアニメ　音声に負けないコミック本の仕立て方

D. マンガと言葉（宮本）
10. 漫画と時代　漫画と私たちの生活
11. 漫画の間白　漫画の間白とコミュニケーションの類似的
12. 漫画の活用　商業利用の背景

E. 戦うマンガたち（小野田）
13. 物語の基本構造　「のび太」や「しんちゃん」はなぜ映画になると戦うのか。
14. 物語の弁証法　手描きのジブリとCGのピクサー
15. 物語の反復　アメコミの実写化

Ⅴ 使用テキスト・教材等

適宜プリント等を用意する。

Ⅵ 参考書・参考資料

現代漫画博物館　小学館漫画賞事務局（編）　小学館

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

学習項目＼成績評価方法	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　）
配点比率(%)　合計 100		45	10	45	
文学への関心の深化		○		○	
文学研究の方法に習熟		○	○	○	
新しいことへの挑戦力		○	○		

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

それぞれの教員の初回の指示に従うこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

授業態度に難のある者には退室を求め、欠席扱いとする。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
メディア制作		**2**	**日**	**2**	**那珂元**

キャスト：５　多彩な表現に挑戦する　　［プレゼン：選］

Ⅰ　主題

これからの時代で情報を発信・共有していくために、画像・映像メディア制作に関する基本的なスキルを身につける

Ⅱ　授業の到達目標

1.メディアの特性について理解できるようになる。
2.メディア制作を通して、基礎的な情報機器や編集ソフトウェアの使い方を習得することができる。
3.制作過程に必要なチームプレー（協調性・交渉力）を身につける事ができる。

Ⅲ　授業の概要

自身の創造性を発揮するために、演習を通して画像・映像メディア制作の基本的なスキルを身につける。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	はじめに	授業の流れの確認
2.	画像処理の基礎	画像処理とは、ファイルの形式、画像処理の下準備
3.	画像処理ソフトの基礎①	範囲の選択、ブラシ、テキストなどの基本的な機能
4.	画像処理ソフトの基礎②	レイヤーを使った画像の編集
5.	画像処理の演習①	画像作品の作成
6.	画像処理の演習②	画像作品の作成
7.	発表会	作成した画像作品の発表
8.	日文科紹介映像　アイデア会議	グループによるアイデア会議
9.	日文科紹介映像　撮影①	目的を持った撮影
10.	日文科紹介映像　撮影②	ブラッシュアップの為の撮影
11.	日文科紹介映像　編集①	構成通りの編集
12.	日文科紹介映像　編集②	構成通りの編集
13.	日文科紹介映像　編集③	ブラッシュアップの為の編集
14.	上映会・意見交換	批評
15.	まとめ	まとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等

適宜案内する

Ⅵ　参考書・参考資料

無

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 ／ 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%			60	40	
メディアの特性に関する理解			○	○	
メディア制作のスキル			○	○	
共同制作への積極的な参画度			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

コンピュータや電子機器を利用するので、履修する場合は、それらに対する苦手意識をなくしておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
映像と文化		**2**	**日**	**2**	**中村国男**

キャスト：５ 多彩な表現に挑戦する

Ⅰ 主題

小説や漫画の名作が映画化されることから分かるように、映像作品は文学等の紙に書かれた芸術と深い関係にあり、単なる娯楽ではない文化であることを理解する。日本のアニメ映画、実写映画の中から、今も記録に残る有名作品を扱い、その描写方法等を分析する。

Ⅱ 授業の到達目標

1.映像作品を改めて見直し、興味関心を持つことができる。
2.主人公だけでなく、映像が描き出す多彩な人物像を理解できる。
3.自分なりの発想で映像作品の魅力や、長所短所を論ずることができる。

Ⅲ 授業の概要

学生が入手可能なビデオ・DVDなどになっている映像作品や、論評した本の多い映像作品を鑑賞し、意見交換する形で授業を進める。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	アニメ映画の多彩な人物考察1	授業計画の確認　千と千尋の神隠し1
2.	アニメ映画の多彩な人物考察2	千と千尋の神隠し2
3.	アニメ映画の多彩な人物考察3	千と千尋の神隠し3
4.	アニメ映画の多彩な人物考察4	千と千尋の神隠し4
5.	アニメ映画の多彩な人物考察5	千と千尋の神隠し5
6.	アニメ映画の多彩な人物考察6	千と千尋の神隠し6　レポート作成提出
7.	レポートデータの確認	レポートデータを踏まえた意見交換
8.	実写映画の多彩な人物考察1	男はつらいよ第1作1
9.	実写映画の多彩な人物考察2	男はつらいよ第1作2
10.	実写映画の多彩な人物考察3	男はつらいよ第1作3
11.	実写映画の多彩な人物考察4	男はつらいよ第1作4
12.	実写映画の多彩な人物考察5	男はつらいよ第1作5
13.	実写映画の多彩な人物考察6	男はつらいよ第1作6　レポート作成提出
14.	レポートデータの確認	レポートデータを踏まえた意見交換
15.	最終レポート	映像作品と文学作品の比較考察レポート作成提出

Ⅴ 使用テキスト・教材等

適宜プリントを用意する。

Ⅵ 参考書・参考資料

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	30	40		30	
映像作品への興味関心	○	○		○	
多様な人物像の理解	○	○			
自分なりの映像作品論評力	○				

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

扱う作品のDVDなどを購入又は図書館で借りるなどして繰り返し視聴しておくこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

授業態度に難のある者には退出を求め、欠席扱いとする。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
昔話とわらべ歌		**2**	**日**	**1**	**宮本淳子**

キャスト：５　多彩な表現に挑戦する

Ⅰ　主題

口承文芸の「伝え手」になるために、それらの特徴や魅力を理解し、幾つかの作品を暗誦・実演できるようになる。

Ⅱ　授業の到達目標

1.口承文芸の物語文法について特徴を説明できる。
2.少なくと昔話３作品（海外作品含む）・わらべ歌５作品を暗誦できる。
3.人間の成長における昔話とわらべ歌の意義を説明できる。

Ⅲ　授業の概要

日本・海外の昔話を「朗読」により鑑賞し、「聞き手」として魅力や特徴を学んでいきつつ、
人間の歴史の中では自らも口承文芸の伝え手の一人であるという視点から、
口承文芸の変化について考えていく。また、わらべ歌も含め、口承文芸が人間の成長にとって、
どのような意味を持つのか、「子育て」における口承文芸の役割についても考えていく。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	はじめに	授業内容の紹介
2.	昔話文法①	昔話の物語文法を学ぶ（グリム童話）
3.	昔話文法②	耳で聞く文学の特徴（グリム童話）
4.	昔話のテーマ①	メッセージを理解する手がかり（グリム童話）
5.	昔話のテーマ②	多様なメッセージ
6.	昔話のテーマ③	メッセージの普遍性
7.	昔話と人生観	昔話にみる人生哲学
8.	語りの法則	昔話の意義
9.	昔話のまとめ	昔話の価値の再考
10.	わらべ歌の分類①	遊ばせ遊び歌
11.	わらべ歌の分類②	遊び歌
12.	わらべ歌の分類③	自然・動物・植物に関する歌
13.	わらべ歌の分類④	年中行事に関する歌
14.	わらべ歌の分類⑤	子守唄
15.	わらべ歌のまとめ	わらべうたの価値

Ⅴ　使用テキスト・教材等

適宜プリントを配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	40	30		30	
口承文芸の特徴を説明する	○	○		○	
口承文芸の価値を理解する	○	○		○	
人間の成長における口承文芸の価値を推論できる	○	○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

授業では主に口承文芸を「聞く」側になるが、復習として、その作品を「伝える」側として
第三者に伝えるように心掛けること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

資料の予備は保管しません。出席者同士でコピーすること。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
絵本の世界		**2**	**日**	**1**	**久保節子**

キャスト：６ 子どもの世界に入り込む

Ⅰ 主題

この授業では、絵と言葉からなる作家の想いを感じ取り、絵本の魅力と社会性についても考えを深める。

Ⅱ 授業の到達目標

1.いろいろなジャンルの絵本を知り、自然や社会、人のあり方等を理解できるようになる。
2.絵本の評価について、自分なりに分析して発表できるようになる。
3.絵本の価値をより多くの人に伝えられるようになる。

Ⅲ 授業の概要

講師及び学生の選んだ絵本を共に味わい、感じた事を伝え合う。
グループごとにテーマを決めて、絵本を紹介し合う。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1	絵本との出会い	講師の絵本体験
2	絵本で自己紹介	お気に入りの絵本を持ち寄り、紹介する。
3	絵本の中の音	リズムが心地よい音・音・音
4	絵本と色	気持を現わす色・色・色
5	歌を楽しむ	絵本を見ながら歌おう！
6	冒険絵本	グループになって紹介し合う。
7	〃	感想を述べ合う
8	昔話絵本	グループごとに題材を決めて選んでくる。
9	〃	比較して違いなどを知る。
10	〃	発表し合う。
11	自然科学の絵本	身近なことに気付く。
12	〃	子どもに手渡したいものは？
13	メッセージ性のある絵本	平和、絆など、教訓から学ぶ。
14	〃	後世に残したいものは？
15	絵本の可能性	明るい未来を拓く絵本！！

Ⅴ 使用テキスト・教材等

なし。 講師及び学生の選んだ絵本を使用する。

Ⅵ 参考書・参考資料

資料はプリントして渡す。

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%) 合計 100%		30	30	40	
絵本の様々な魅力を理解		○	○	○	
選択した絵本の紹介を実践		○	○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

図書館等で、テーマに沿った絵本を選んでくる。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

私語は慎む。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
絵本を作る		**2**	**日**	**2**	**久保節子**

キャスト：５ 多彩な表現に挑戦する（１年生用：キャスト６）

Ⅰ　主題

この授業では、作る目的を定め、自分の想いが詰った絵本を創作する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.自分の想いを、絵(色)と言葉で表現できるようになる。
2.創作の楽しさ、喜びを体験することができる。
3.作品を通して、仲間の生き方を学ぶことができる。

Ⅲ　授業の概要

好ましい絵本の魅力を分析して、自分の作りたい絵本の構想を練る。
下準備の時間を十分に取り、初心者でも楽しんで作れるようにする。

Ⅳ　授業計画と内容

この授業は、自分の表現したいことを素直に表現できるようにする。

	項　　目	内　　容
1	絵本の魅力	どんな絵本がお気に入り？
2	絵本作りの目的は？	誰の為に？何を届けたい？
3	物語を考える	既成絵本の展開を確かめつつ、自分のストーリーを考える。
4	絵コンテを作る	ストーリーをコマ割りして、場面を描く。
5	〃	コマごとに言葉を書き込む。
6	原寸ラフ本を作る	実物を想定して場面を作る。
7	〃	簡単に彩色する。
8	〃	声に出しながら言葉を整理する。足りなければ加える。
9	本描きに入る	画材を決め、描いて行く。
10	〃	〃
11	〃	〃
12	表紙絵を描く	タイトルも考える。
13	完成した絵本を読む	手に取って見せ合う。
14	〃	読み聞かせをし合う。
15	感想と反省	お互いに感想を述べ合う。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

なし。 絵本作りのための画用紙、キットなど。

Ⅵ　参考書・参考資料

資料はプリントして渡す。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%		10	50	40	
丁寧な作業			○	○	
絵と言葉による表現力		○	○	○	
物語の完成度		○	○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

集中すれば時間内に完成できる予定だが、間に合わない場合は自宅での作業もある。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業中は絵本制作に専念する。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
児童文学		**2**	**日**	**1**	**宮本淳子**

キャスト：６ 子どもの世界に入り込む

Ⅰ 主題

児童文学の価値を再認識するために、テーマ別の児童文学（主に絵本）に触れ、
自身の感性と経験を軸とした感想発表ができるようになる。

Ⅱ 授業の到達目標

1.好きな児童文学（絵本を含む）を最低 3 作品、プレゼンできる。
2.作品ついて的確な理由に基づいた自分なりのコメントができる。
3.幼少時代と比較した読者としての感じ方の違いを認識できる。

Ⅲ 授業の概要

主に絵本を用い大人の視点から作品の解釈を行うことで、魅力を考察する。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	はじめに	授業内容の説明
2.	児童文学に触れる①	巌谷小波『こがね丸』上
3.	児童文学②	巌谷小波『こがね丸』下
4.	児童文学体験振り返り①	各自の思い出の一冊紹介
5.	児童文学体験振り返り②	各自の思い出の一冊紹介
6.	テーマ別作品鑑賞①	テーマ「自己探求」
7.	テーマ別作品鑑賞②	テーマ「命」
8.	テーマ別作品鑑賞③	テーマ「仕事」
9.	テーマ別作品鑑賞④	テーマ「愛」
10.	児童文学と時代性①	時代を反映した作品
11.	児童文学と時代性②	各自の考察発表
12.	テーマによる作品分類①	グループワークによる作品分類づくり
13.	テーマによる作品分類②	各グループによる発表
14.	※（県立中央図書館「こども図書研究室訪問）	
15.	まとめ	まとめ

Ⅴ 使用テキスト・教材等

特になし

Ⅵ 参考書・参考資料

児童文学の教科書	川端有子	玉川大学出版部	2013
いま、子どもに読ませたい本	野上暁	七つ森書館	2014

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	30	30		40	
各自の感性や経験に基づいた作品読解ができる	○	○		○	
テーマ別に複数の作品を分類できる	○	○		○	
物語の魅力を的確に伝えることができる	○	○		○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

1 つの授業で複数の作品を紹介するが、興味を持った作品は詳しく読み、
自分なりの解釈をまとめておくこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

※期間中に一度、静岡県立中央図書館「子ども図書研究室」を利用しての授業を行う予定。
この日程により、スケジュールが変更になることがあるので授業内での告知に注意すること。
・資料の予備は保管しません。出席者同士でコピーすること。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
子供の心理		**2**	**日**	**1**	**金子泰之**

キャスト：６子どもの世界に入り込む

Ⅰ　主題

子どもの発達に関する基礎知識を獲得する

Ⅱ　授業の到達目標

1.子どもの身体と心の発達の基礎を説明できるようになる
2.子どもに関する様々な問題を心理学的に理解し，自分なりの考えを述べられるようになる
3.子どもの発達に関する基礎知識をもとに，子どもに対する支援方法を述べらえるようになる

Ⅲ　授業の概要

講義形式だけでなくグループワークや実習を通して，ヒトの発達への理解を深め，子どもへの支援方法を考える

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	発達とは	授業全体の概要
2.	子どもの発達(1)	乳児期の発達
3.	子どもの発達(2)	幼児期の発達
4.	子どもの発達(3)	児童期の発達
5.	子どもと他者(1)	子どもにとっての愛着の役割
6.	子どもと他者(2)	子どもが他者の心を理解するとき
7.	子どもと集団(1)	乳幼児期における集団
8.	子どもと集団(2)	児童期における集団
9.	子どもの問題と支援(1)	発達障害
10.	子どもの問題と支援(2)	不登校
11.	子どもの問題と支援(3)	いじめ
12.	子どもの問題と支援(4)	問題行動
13.	子どもとの関わり方(1)	投影法による子どもの発達理解
14.	子どもとの関わり方(2)	投影法による子どもの気持ちの理解
15.	まとめ	

Ⅴ　使用テキスト・教材等

授業中に資料を配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

必要に応じて授業中に参考書を案内する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　　合計 100	50			50	
子どもの発達についての基礎的理解	○				
子どもの問題に関する心理学的理解と説明				○	
子どもへの支援方法の理解	○				

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

子どもに関する記事やニュースに目を通しておくこと
前の授業で配布した資料を読み返し，復習しておくこと

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

演習形式を積極的に取り入れて授業を行います。
グループワークには意欲的に参加すること。
意見を求められたら積極的に発言すること。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
言葉のきまり		**2**	**日**	**1**	**小野田貴夫**

キャスト：7 隈なく関わる日本語

Ⅰ 主題

言葉は、さまざまな決まりごとから成り立っている。そうした決まりが、どのような過程を経て習得され、自己表現やコミュニケーションの場面でどのような効果を発揮するのか、取り上げる。

Ⅱ 授業の到達目標

1.意味論、文法、語用論について言語学の基礎的な理解の枠組みを解説できる。
2.言語発達の標準パターン(と偏差)を理解し、各段階における意味、文法、言語運用規則の在り方を説明できる。
3.実際に使われている言葉を取り上げ、上記の 1 及び 2 の観点から分析できる。

Ⅲ 授業の概要

意味論、文法、語用論の観点から、言語の発達・習得過程を概観し、それぞれの段階における言語の規則性とその効果について解説していく。また、それらをうけて、実際に話されている言葉やその時の状況を、グループワークを通じて分析していく。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	前言語的コミュニケーション	乳児期のコミュニケーションについて
2.	乳幼児期の思考様式	アニミズム、実念論、人工論等
3.	意味論の基礎	言葉の意味とは何か
4.	文法の基礎	日本語文法の特徴
5.	文法の基礎 2	日本語には主語がない
6.	ディスコースについて	言語行為論
7.	ディスコースについて	言語ゲーム論
8.	文脈について	関連性理論の基本
9.	配慮表現と対人関係	ポライトネス理論について
10.	ポジティブポライトネス	近づける配慮について
11.	ネガティブポライトネス	遠ざける配慮について
12.	物語論ついて	ナラティブの構成と効果
13.	言語表現と性差	性差と思考様式／性差と表現様式
14.	私の言葉	自己表現と他者理解について
15.	まとめ	

Ⅴ 使用テキスト・教材等

資料を配布する

Ⅵ 参考書・参考資料

レキシコンの構築	今井むつみ	岩波書店
日本人の脳に主語はいらない	月本洋	講談社選書メチエ
わきまえの語用論	井出祥子	大修館書店

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	75	15		10	
言語学の基本的な理解の枠組みを解説できる	○	○		○	
言語発達の標準パターンを説明できる	○	○		○	
実際の言葉を分析できる	○	○		○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

各回に配布する資料の再読と課題の実施。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
言葉遊び		**2**	**日**	**2**	**宮本淳子**

キャスト：６ 子どもの世界に入り込む

Ⅰ　主題

日本語の持つ、コミュニケーション以外の価値を理解するために、
日本語の遊戯性や芸術性について理解し、日本語や言葉の特性を深く理解できるようになる。

Ⅱ　授業の到達目標

1.日本語の持つコミュニケーション以外の価値を説明できる。
2.言葉遊びを通じて、周囲との協調性を図り、積極的な周囲との交流ができる。
3.日本語の特性を踏まえ、オリジナルの言葉遊びを少なくとも一つ生み出すことが出来る。

Ⅲ　授業の概要

実践形式で「言葉遊び」を体感し、日本語の持つ特性と魅力について学ぶ。
相手との意思疎通を図るための「言葉」ではなく、ひとつの「モノ」として言葉を位置づけ、
それを活用した遊びの生まれた背景や意図を、歴史と照らしあわせながら探っていく。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	はじめに	授業内容の説明
2.	声に出す遊び①	しりとり・なぞなぞ
3.	声に出す遊び②	早口言葉・語呂
4.	声に出す言葉遊び③	韻律・誤変換・なぞかけ
5.	書く言葉遊び①	書道アート・詩における言葉遊び
6.	書く言葉遊び②	翻訳・判じ絵
7.	書く言葉遊び③	漢字クイズ・漢字ビンゴ
8.	考える言葉遊び①	駄洒落・ことわざ
9.	考える言葉遊び②	現代ならではの言葉遊びを考える
10.	聴く言葉遊び①	落語
11.	聴く言葉遊び②	漫才
12.	日文かるた作り①	日本語の表現力を駆使する
13.	日文かるた作り②	日本語の表現力を駆使する
14.	日文かるた大会	遊びの工夫
15.	まとめ	まとめ・言葉遊びの未来像

Ⅴ　使用テキスト・教材等

適宜プリントを配布する

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	40		30	30	
言葉遊びの実践				○	
言葉遊びの必要性の理解	○		○	○	
柔軟な発想力	○		○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

授業で行った言葉遊びについて友人や家族と幼少時代の記憶を情報交換することで、
共通点・相違点を積極的に理解すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

・資料の予備は保管しません。出席者同士でコピーすること。
・当日欠席により授業内で告知した課題提出ができない場合は、事前に受け付ける。
　期日を過ぎた課題は基本的に受け付けないものとする。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
言葉と生活		**2**	**日**	**2**	**宮本淳子**

キャスト：８ 活き活きとした日本語を話す

Ⅰ 主題

日常生活において円滑なコミュニケーションを行うため、普段の会話や TV のインタビュー番組などに注目し、それらを分析・考察することで、具体的な気持ちの良い会話の手法を習得する。

Ⅱ 授業の到達目標

1.会話分析の手法を用い、身近な会話を分析することができる。
2.アサーション理論に基づいた言葉選びができる。
3.これまでの自身の発話傾向を客観的に分析し、改善点を見つけることが出来る。

Ⅲ 授業の概要

当たり前のように触れていた自分を取り巻く言葉（会話）に改めて向き合うことで、言葉と自分のより良い関係性を考えていく。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	はじめに	授業内容の紹介
2.	言葉とは	言葉の多面性
3.	会話記録について	会話記録の作り方説明
4.	会話記録の実践①	会話記録による課題の発見（友だちとの会話から）
5.	会話の改善①	問題点の改善法を探る
6.	会話記録の実践②	会話記録による課題の発見（テレビ番組から）
7.	会話の改善②	問題点の改善法を探る
8.	会話のしくみ①	情報を伝える言葉
9.	会話のしくみ②	「場」を意識した会話
10.	会話のしくみ③	アサーションについて
11.	会話のしくみ④	アサーションの実践
12.	会話記録のまとめ	自分の話し方の特徴
13.	理想の話し方とは	各自のコミュニケーションにける改善点発表
14.	理想の会話	会話モデルの作成
15.	まとめ	まとめ

Ⅴ 使用テキスト・教材等

適宜プリントを配布する

Ⅵ 参考書・参考資料

アサーショントレーニング　平木典子　金子書房　2009

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	30		40	30	
日常生活と言葉の関係の理解	○		○	○	
場面に応じた会話ができる	○		○	○	
会話に対する興味・関心を持つ	○		○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

携帯電話の録音機能やボイスレコーダーを使った会話記録を行ってもらう。
文字化作業を授業外で行ってもらうことがある。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

グループワークで、場面に応じた会話モデルケースの作成と発表をしてもらう時間がある。
資料の予備は保管しません。出席者同士でコピーをすること。
当日欠席により課題提出できない場合は、事前に受け付ける。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
話す技術		**2**	**日**	**1**	**宮本淳子**

キャスト：８ 声の力を使いこなす　　［プレゼン：選］

Ⅰ　主題

人前で話す「スピーチ力」を向上させるために、
TPO に合わせたスピーチ原稿の作成方法とそれをもとにした話し方の技術を学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標

1.TPO にあわせて、2 分程度のスピーチ原稿作りができる。
2.話し言葉を意図的に用いることができる。
3.原稿に従いつつも、原稿を見ずに、2 分程度スピーチができる。

Ⅲ　授業の概要

毎回、立候補制によるスピーチの実践時間を設ける。スピーチ原稿の提出とスピーチ発表、それぞれをポイント制とし、最終課題（試験）までに一定のポイントをクリアする必要がある。
本授業は、「スピーチの成功には、正しいスピーチ原稿の作成が不可欠である」という考えのもと、
原稿作成時における様々な技術を学び、それを踏まえた話し方の手法について、実践を通して学ぶ。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	はじめに	授業内容の説明・発声練習
2.	自分の声質・話し方の分析	自己紹介スピーチ・声の悩み・話し方の改善点を探る
3.	スピーチとは	スピーチについての基礎知識
4.	スピーチの原稿づくり①	話題の選び方
5.	スピーチの原稿づくり②	話題の組み立て・展開・まとめ
6.	スピーチの原稿づくり③	表現の工夫①話し言葉
7.	スピーチの原稿づくり④	表現の工夫②オノマトペ・比喩・語尾等
8.	スピーチ技術①	話し方①強弱・緩急・高低等
9.	スピーチ技術②	話し方②間の取り方
10.	スピーチのブラッシュアップ①	収録映像・原稿から改善点を探る
11.	スピーチのブラッシュアップ②	音声の工夫
12.	ノンバーバルコミュニケーション①	視線・表情・ジェスチャーとの関係
13.	ノンバーバルコミュニケーション②	収録映像での比較
14.	最終課題にむけて	最終課題用原稿のチェック
15.	まとめ	まとめ・最終スピーチ発表

Ⅴ　使用テキスト・教材等

スピーチライティングの心得　　宮本淳子　　篠原印刷所出版部

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%			50	50	
TPO に合わせた原稿作りができる			○	○	
話し言葉を意図的に使用できる			○	○	
原稿を見ずに発表できる			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

スピーチメモや原稿の作成は、各自授業時間外に行ってもらう。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

スピーチが得意な学生はもちろん、人前で話すことが苦手な学生も是非受講してほしい。
スピーチ内容に自信を持つことによる、発表時の気持ちの変化を、是非この授業で体験して下さい。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
アナウンス入門		**2**	**日**	**1**	**宮本淳子**

キャスト：８ 声の力を使いこなす　　［プレゼン：選］

Ⅰ　主題

自分の感情・意図を声で正しく伝えるために、滑舌や発声などアナウンスの基本を学び、日常生活に必要な「声の表現力」を磨く。

Ⅱ　授業の到達目標

1.正しい発声方法で TPO にあった声量が出せる。
2.滑舌よく、明瞭な話し方ができる。
3.「声を磨くこと」を通じた人間力向上を図ることが出来る。

Ⅲ　授業の概要

実技を中心とし、毎回、発声・滑舌などのトレーニングを行う。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	アナウンスとは	授業内容の紹介
2.	「伝える」声の出し方	声のウォーミングアップ
3.	滑舌練習①	滑舌練習
4.	滑舌練習②	滑舌練習
5.	美しいアナウンスの基礎	鼻濁音・アクセント・イントネーション
6.	ニュース	意味をとらえた声の出し方
7.	気象情報	柔らかさのある声の出し方
8.	ラジオCM①	時間を意識して表現する
9.	ラジオCM②	時間を意識して表現する
10.	自分の気持ちを言葉で表現する	ラジオ番組を想定したDJトーク
11.	リポート準備	取材して原稿を作る
12.	リポート実践	ラジオ中継を意識したリポート
13.	司会の基礎	司会者の心得
14.	朗読・ナレーション	声とテンポを調節する
15.	まとめ	まとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等

特になし

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 ／ 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%			50	50	
正しい発声方法の理解			○	○	
表現力ある声の獲得			○	○	
心と声の関係を意識できる			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

受講する者は、普段からラジオ・テレビ・イベントなどでアナウンサーや司会者のアナウンスに積極的に耳を傾けておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

「声を出すこと」が好きな人はもちろん、人前で声を出すことが苦手な人、自分の声や話し方に悩みがある人も、是非受講してください。授業内でのアナウンス実演（発表）は指名性ではなく、立候補です。積極性を重視します。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
ルポルタージュ入門		**2**	**日**	**2**	**宮本淳子**

キャスト：８ 活き活きとした日本語を話す　　［プレゼン：選］

Ⅰ　主題

客観的に物事をとらえ、言葉で表現する力を養うために、取材力と文章力を身につけ、ルポルタージュ作品を完成させる。

Ⅱ　授業の到達目標

1.ルポルタージュの特徴を説明することができる。
2.ルポルタージュに必要な情報の収集・選択・再構築・提示の手法を実践できる。
3.ルポルタージュ作品を最低3つ完成させる。

Ⅲ　授業の概要

文章表現における「ルポルタージュ」に的を絞り、実践の中で取材と表現活動を学んでいく。各自が独自のテーマを設定し、取材することになる。作成した作品を互いに批評することでルポルタージュに対する感性を磨いていく。最終的には完成作品を文集にまとめ小冊子を作成する。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	ルポルタージュとは	授業内容の紹介
2.	ルポルタージュ作品を読むⅠ	人物ルポ
3.	ルポ作成に向けて①	インタビュー取材の仕方
4.	ルポ批評①	インタビュールポを相互批評
5.	ルポルタージュ作品を読むⅡ	体験ルポ
6.	ルポ作成に向けて②	テーマの設定・取材リストの作成
7.	ルポ批評②	体験ルポの相互批評
8.	ルポのブラッシュアップ	ブラッシュアップ版の相互批評
9.	ルポ作成③	同一テーマの設定
10.	ルポ作成のフィールドワーク	各自の取材
11.	ルポ批評③	同一テーマルポの相互批評
12.	作品集づくり①	作品選びと構成案づくり
13.	作品集づくり②	編集・校正作業を知る
14.	作品集づくり③	印刷・見直し
15.	まとめ	まとめ・作品集講評

Ⅴ　使用テキスト・教材等

適宜プリントを配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%			50	50	
ルポルタージュについての知識の獲得			○	○	
情報の収集から提示に至る手法の習得			○	○	
情報リテラシーの習得			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

各自のルポルタージュテーマに従って、取材を行ってもらう。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

テーマ選択の際、ディスカッションで意見交換を行ってもらうことがある。
また、作成したルポについて、受講者が互いに意見を述べる形式でブラッシュアップ作業をしていく。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
福祉と言葉		**2**	**日**	**2**	**小野田貴夫**

キャスト：９ 社会をとらえる言葉

Ⅰ 主題
心身の障害に応じたコミュニケーションの方法・様式を取り上げる。

Ⅱ 授業の到達目標
1.心身の障害に応じたコミュニケーションの問題を指摘できる
2.障害に応じたコミュニケーションの方法を解説できる
3.障害に応じた基本的な表現ができる

Ⅲ 授業の概要
視覚、聴覚、認知能力等の障害について理解しながら、それぞれに応じたコミュニケーションの方法・様式について解説していく。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	手話とは	ろう者にとっての手話とシムコム
2.	日本手話の文法	シムコムと日本手話の成り立ちの違いについて
3.	「ろう文化宣言」	日本におけるろう者の社会的・文化的な立場
4.	特別支援学校と統合教育	＜差別＞を無くすことの弊害？
5.	聴覚障害者のカウンセリング	手話に対する社会的な偏見と家族の理解について
6.	ホームサインとろう学校	学校制度が、ろう者を孤立させる？
7.	視覚障害の程度と盲学校	点字教育と点字利用者の実際
8.	点字の基礎	点字の基本的な構造
9.	視覚障害支援機器・設備	個人支援機器と公的な場所における設備
10.	視覚聴覚重複障害とは	認識の限界とコミュニケーションの可能性
11.	触覚を利用する言語	障害の発症時期に応じたコミュニケーション手段
12.	高齢者の視覚・聴覚の障害	老化に伴うコミュニケーション能力の低下
13.	認知症と視覚・聴覚障害	認知能力の低下と知覚の器質的障害
14.	高齢者の言葉の特徴	反復とエピソード形式の語りについて
15.	障害者コミュニケーション論	否認と誤解を超えていくための共通理解の地盤

Ⅴ 使用テキスト・教材等
資料を配布する

Ⅵ 参考書・参考資料

ろう文化宣言（『現代思想 1996 年 4 月臨時増刊号』	現代思想編集部	青土社
聴覚障害者の心理臨床	村瀬嘉代子編	日本評論社
みんなの手話 2015 NHK シリーズ	NHK 編	日本放送出版協会

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	75	15		10	
コミュニケーションの問題が指摘できる	○	○			
コミュニケーションの方法が解説できる	○	○			
障害に応じた基本的な表現ができる	○	○		○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
各回に配布する資料の再読と課題の実施。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
私語は慎む。積極的に発言する。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
読み聞かせ		**2**	**日**	**1**	**久保節子**

キャスト：８ 声の力を使いこなす

Ⅰ　主題

この授業では、各人の個性ある表現を認め、自分自身も、その個性を磨いて行けるようにする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.聞き手と共に絵本を楽しむことができるようになる。
2.手あそびや、指を使ったお話を通して、表現の工夫を身につけることができるようになる。
3.仲間の表現に対して率直な感想を述べられるようになる。

Ⅲ　授業の概要

小グループでの実践を通して、読むことの楽しさを体得する。
講師や仲間の読み聞かせをたっぷり聞いて、聞くことの楽しさを味わう。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　　目	内　　容
1	目標設定	授業を通してどのようになりたいか目標を決める。
2	赤ちゃん絵本を読む	オノマトペを楽しむ。
3	〃	グループごとに読んでみよう。
4	歌の絵本を読む	絵を楽しみながら歌おう！
5	〃	グループごとに工夫してみよう。
6	指を使ったお話の実践	顔を見ながら心を開く。
7	〃	表情も大きな働きをしている！
8	幼い子の好きな絵本	幼い子の興味の対象を知ろう。
9	〃	グループごとにテーマを決めて、たっぷり読もう。
10	伝えたい絵本を読む	今、自分が一番読みたい絵本を読む。
11	〃	対象を考えて絵本を選ぶ。
12	〃	グループごとに読み合う。
13	〃	読む絵本について下調べをする。
14	〃	より深く理解して読み聞かせする。
15	目標達成！	学んだ事、身に付けた事を振り返る。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

なし。 絵本を選んで持参する。

Ⅵ　参考書・参考資料

資料はプリントして渡す。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%		20	40	40	
豊かな表現力を身につける			○	○	
絵本をより深く理解する		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

目的に合った絵本を選んでくる。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

私語は慎む。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
言語文化入門		**2**	**日**	**1**	**小野田貴夫**

キャスト：９ 文化を掘り起こす

Ⅰ 主題

言語文化に関する基礎理論を取り上げ、日常の現実問題を言語文化的な観点から解説する。

Ⅱ 授業の到達目標

1.言語と文化の関係についての基本的な理論が説明できる。
2.日常の事象を、言語文化論的な視点から、解説できるようになる。
3.日常の問題について、言語文化論的な視点から解決方法を提示する。

Ⅲ 授業の概要

言語文化に関する基礎理論を、それぞれの回で取り上げるテキストにそって解説する。さらに、その理論を使って実際の事象について議論し、そこに潜在する課題の解決方法を検討する。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	言語とこころの関係について	ものごとの見え方・考え方と言葉との関係
2.	言語と文化の関係について	言語が違うと見え方も変わるのか
3.	言葉とクラスについて	階級が違うと言葉も見え方も違う
4.	言葉の権力について	言葉によって人を支配する仕組みについて
5.	人間関係と言葉の使い方	言葉の使い方が人間関係を調整する
6.	自己表現と言葉の使い方	言葉の使い方が文学を作る
7.	日本文化としての日本語	日本文化の特徴と日本語の特徴
8.	日本語の文法的特徴	三上章の日本語論と日本文化論
9.	日本文化における視点の特徴	ヨーロッパ的な神の視点との比較
10.	日本文化と日本語の関係	日本語が作りだす人間関係と文化
11.	コミュニケーション様式の変化	ITの普及と複数の〈私〉
12.	新しい文化とコミュニケーション	ネットの文化とネット上の文化
13.	言葉と思いやりについて	言葉と文化の起源について
14.	言葉と文化の地域主義	グローバリズム対地域主義について
15.	まとめ	

Ⅴ 使用テキスト・教材等

資料を配布する

Ⅵ 参考書・参考資料

日本語には敬語があって主語がない　金谷武洋
日本人の〈わたし〉を求めて　新形信和
話すということ　P.ブルデュー

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

学習項目＼成績評価方法	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	75	15		10	
言語文化に関する基礎理論が説明できる	○	○			
現実の場面が分析できる	○	○		○	
解決方法が提示できる	○	○		○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

各回に配布する資料の再読と課題の実施。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
比較文化		**2**	**日**	**2**	**新妻明子**

キャスト：９ 社会をとらえる言葉　　［キャリア：選］

Ⅰ　主題

比較文化から生じる異文化理解の知識や理論を学び、現実世界で実際に活用できるようになることを目指す。

Ⅱ　授業の到達目標

1.異文化理解とその諸問題について具体的に3つ以上説明することができる。
2.異文化コミュニケーションにおける知識を現実世界の出来事に応用することができる。
3.異文化理解を通して、自己認識や異文化受容に関する考えをまとめることができる。

Ⅲ　授業の概要

この授業では、テキストの内容に即して実際に異なる文化を比較し、異文化理解について考える。異文化理解を実際に理解するためにペアワークやグループワークを行う場合もある。また、自己認識や振り返りのために毎回小レポートを課す。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	異文化を理解する	異文化理解の意義、歴史
2.	文化とは(1)	文化の氷山モデル
3.	文化とは(2)	文化の特徴
4.	異文化適応	カルチャーショックとは
5.	シミュレーション	シミュレーションの意義と実践
6.	違いに気づく	行動・視点・環境の違い
7.	異文化の認識	ステレオタイプについて
8.	差別を考える	差別の種類と生まれる背景
9.	世界の価値観	高文脈文化 vs 低文脈文化
10.	異文化トレーニング	異文化トレーニングの種類と実践
11.	異文化受容	異文化受容の5つのステージ
12.	自分を知る	ジョハリの窓
13.	非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションの種類
14.	アサーティブ・コミュニケーション	自分のスタイルを知る
15.	多文化共生社会の実現に向けて	多文化共生社会に参画する

Ⅴ　使用テキスト・教材等

異文化理解入門　　原沢伊都夫　　研究社

Ⅵ　参考書・参考資料

授業で適宜紹介する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他(発表回数)
配点比率(%)　合計 100%	40	50		10	
異文化理解関する知識	○	○			
異文化理解の諸問題に関する説明	○				
異文化理解に関する考察・意見		○		○	
ペアワーク・グループワークへの取組				○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

原則的にテキスト1章ごとに授業を進めるため、予習・復習で該当する部分を読んでおくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
日本文学国際演習		〔2〕	日	1	**小野田貴夫、瀬戸宏太**

キャスト：９ 文化を掘り起こす

Ⅰ 主題

日本語の文学作品の表現とその英訳表現を比較することで、それぞれ違いや特徴を理解することを主題とする。

Ⅱ 授業の到達目標

1.作品の内容を把握し要約できる。
2.日本語の表現を英語に翻訳した時に生じる変化や違いを説明できる。
3.英訳との比較によって日本語に特徴的な表現や印象的な表現を指摘できる。

Ⅲ 授業の概要

各担当者が、自分に割り当てられた作品の箇所について、英訳との対比から、日本語表現と英語表現それぞれの印象、特徴、違和感のある箇所等やその解釈を発表し、それらを元に他の参加者等と議論をしながら作品理解・作品鑑賞を深めていく。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	授業の進め方について	発表者の順番を決める／発表の手順を解説
2.	資料の作り方、発表・議論の仕方について	
3～4.	「午後の授業」「活版所」について	発表と議論、解説
5～6.	「家」「ケンタウル祭の夜」について	発表と議論、解説
7～8.	「銀河ステーション」「北十字とプリオシン海岸」について	発表と議論、解説
9～10.	「鳥を捕る人」「ジョバンニの切符」について	発表と議論、解説
11～12.	「ジョバンニの孤独」「蠍の火」について	発表と議論、解説
13～14.	「サウザンクロスでの別れ」「カンパネルラとの約束」について	発表と議論、解説
15.	まとめ	
16.	Kiritsubo	桐壺巻。発表の手順。The Tale of Genji を読むにあたって。
17.	The Broom-Tree	帚木巻。発表の練習。与謝野晶子の現代語訳。
18-19.	Utsusemi	空蝉巻。発表と議論、解説。
20-21.	Yugao	夕顔巻。発表と議論、解説。
22-23.	Murasaki	若紫巻。発表と議論、解説。
24-25.	The Saffron-Flower	末摘花巻。発表と議論、解説。
26-27.	The Festival of Red Leaves	紅葉賀巻。発表と議論、解説。
28-29.	The Flower Feast	花宴巻。発表と議論、解説。
30.	Aoi	葵巻。まとめ。ウェイリー訳の行方。

Ⅴ 使用テキスト・教材等

『銀河鉄道の夜と Milky Way Railroad』	新妻明子・小野田貴夫	篠原印刷所出版部
『To read The Tale of Genji』	市川真矢・瀬戸宏太	篠原印刷所出版部
『The Tale of Genji』	Lady Murasaki(著)Arthur Waley(訳)	Dover Publications

Ⅵ 参考書・参考資料

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	30		30	40	
内容の要約	○		○	○	
日本語表現の特徴の説明	○		○	○	
英語表現の特徴の説明	○		○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

次回取り上げる箇所について精読し、疑問点をまとめる。担当者は、資料を作成する。また講義で議論した箇所については、改めてその要点をまとめ、新たな疑問点は次回取り上げるために整理しておく。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

受講者多数の場合、2 クラスに分け、前期後期で内容の順番が変わる。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
プレゼンテーション論		**2**	**日**	**1**	**平井修成**

キャスト：１０ 人前で意見を発表する　　［プレゼン：必　キャリア：選］

Ⅰ　主題

プレゼンテーション実践の基盤として、プレゼンテーションの歴史を知り、その意義を理解する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.前近代に既に萌芽が認められるプレゼンテーションの歴史を知る。
2.現代社会に於いて、プレゼンテーションが重要視される理由を理解する。
3.プレゼンーションの実行に関わる基本的な事項を習得する。

Ⅲ　授業の概要

プレゼンテーションが重要視されるようになった社会的背景（1～4）、プレゼンテーション前史（5・6）、プレゼンテーションの方法（7～10）、プレゼンテーションの実践（11～13）、プレゼンテーションの思想（14・15）の順に授業を進める。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	「プレゼンテーション」という語	使用の歴史から見えてくるもの
2.	プレゼンテーションの定義	プレゼンテーションとは何か
3.	プレゼンテーションの概念①	誕生の背景　国民性との関わり
4.	プレゼンテーションの概念②	誕生の背景　現代との関わり
5.	プレゼンテーション前史①	絵解き・節談説教
6.	プレゼンテーション前史②	香具師の商法・詐欺的商法
7.	プレゼンテーションの方法①	目的の設定
8.	プレゼンテーションの方法②	対象（聴衆）の把握
9.	プレゼンテーションの方法③	自己アピール
10.	プレゼンテーションの方法④	会場の設営
11.	プレゼンテーション実践編①	常葉短大を宣伝する・発想を得る
12.	プレゼンテーション実践編②	常葉短大を宣伝する・構想を作る
13.	プレゼンテーション実践編③	常葉短大を宣伝する・実行する
14.	プレゼンテーションの思想①	プレゼンソフトの定番的機能
15.	プレゼンテーションの思想②	プレゼンソフトの開発思想
	定期試験	試験期間内・複数の課題より1乃至2問を選択して解答

Ⅴ　使用テキスト・教材等

適宜プリントを配布する。また、下記Ⅵに記した方法での資料配付を併用する。

Ⅵ　参考書・参考資料

使用資料のDVDへのダビングやWeb上での配布などを行う予定。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	50		20	30	
プレゼンテーションの歴史への理解	○			○	
プレゼンテーションの必要性の理解	○		○	○	
プレゼンテーションの実行力			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

日常生活をする上で「プレゼンテーション」に当たると思われるものに常に留意すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

プレゼンテーション理論編です。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
プレゼンテーション演習Ⅰ		〔2〕	日	1	**宮本淳子**

キャスト：１０ 人前で意見を発表する　　［プレゼン：必］

Ⅰ　主題

相手に行動や判断を促すためのプレゼンテーション技術を習得するために、
プレゼン用の原稿作成能力と発表（話し方）の手法を学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標

1.1 分間プレゼンテーションの構成を踏まえ文章構成ができる。
2.話し言葉を使用した原稿作成ができる。
3.自身で題材を見つけ、3 分程度のプレゼンテーションの実演ができる。

Ⅲ　授業の概要

この授業はプレゼンにおける「構成力」と「言葉選び」に重きを置き、自ら選んだ題材により、プレゼン実演をしてもらう。前期は 3 回に 1 回、プレゼン実演。後期は毎回、立候補式による実践の時間を設ける。また、前期・後期でそれぞれ 1 回ずつ、グループによるプレゼンの実演も行ってもらう。更に、適宜 DVD によるプレゼン鑑賞も行い、より良いプレゼンへのコツを探っていく。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1～2	プレゼンについて①	プレゼンを用いた自己紹介
3～4	プレゼンについて②	日常の中のプレゼン
5～6	プレゼンについて③	達人のプレゼン
7～8	プレゼン実践（1）	テーマを設定したプレゼン
9～10	プレゼンの言葉について	自然体なプレゼンの為の言葉選び
11～12	第一印象について	あいさつ～冒頭フレーズ
13～14	プレゼンの構造　①	文章の組み立て　疑問部分
15～16	プレゼンの構造　②	文章の組み立て　答え部分
17～18	プレゼンの実践（2）	表情・ジェスチャーを意識したプレゼン
19～20	プレゼンの構造　①	文章の組み立て　理由部分
21～22	プレゼンの構造　②	文章の組み立て　理由部分
23～24	プレゼンの構造　③	キラーフレーズの作り方
25～26	プレゼンの実践（3）	キラーフレーズの実践
27～28	最終課題　準備＋発表	オリジナルテーマのプレゼン
29～30	まとめ	まとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等

特になし

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 ／ 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%			50	50	
プレゼンテーションの基本を理解する			○	○	
プレゼンの文章能力			○	○	
プレゼンの実技能力			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

授業内で行うプレゼンの多くは各自で題材を選んでもらうことになる。「これをお勧めしてみたい」というモノを見つける努力をすること。また、プレゼン原稿の作成や練習は授業前に必ず行っておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

プレゼン実践の時間を多く設けるが、「話し方」や「発声法」に自信のない学生は、
「話す技術」と「アナウンス入門」もあわせて受講することが望ましい。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
プレゼンテーション演習Ⅱ		〔2〕	日	2	**瀬戸宏太**

キャスト：１０ 人前で意見を発表する　　［プレゼン：必］

Ⅰ　主題

図表を用いたプレゼンテーションでの課題を、自覚的に処理する能力をつける

Ⅱ　授業の到達目標

1.図表の持つ説得力を理解し、積極的に活用できる。（新しいことへの挑戦力）
2.プレゼン対象の長所を、把握することができる。（文学研究の方法の応用）
3.資料提示等で、息を合わせたプレゼンができる。（コミュニケーション力）

Ⅲ　授業の概要

図表を使ったプレゼンテーションにおいて、考えていくべきポイントは複数ある。その中からⅣに示す課題を取り上げ、順番に一つずつを意識しながらプレゼンテーションの練習を繰り返していく。一つの課題に対して4週程度をかけ、(1)計画・準備(2)発表(3)反省・批評という流れで進める。

Ⅳ　授業計画と内容

発表形態は、個人で行う場合と共同で行う場合とがある。また、最後の課題の発表については、実技試験を兼ねるものとする。

	項　目	内　容
1.	説明と説得	プレゼンテーションの基本の確認。
2-4.	絵解きと図解(課題1)	図表化するものの選択。
5-10.	宣伝文句と箇条書き(課題2)	用意した図表の構成のしかた。
11-15.	数値とグラフ(課題3)	メリハリのある図表の使い方。
16-20.	彩色とフルカラー(課題4)	印象に残る図表の要点。
21-24.	言葉と視覚(課題5)	図表呈示のタイミング。
25-28.	アドリブとリハーサル(課題6)	臨機応変なプレゼンテーションの完成。
29-30.	まとめ	最終プレゼンテーション。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

適宜プリントを用意する。

Ⅵ　参考書・参考資料

参考となる情報は日々更新されていくので、授業時に動画等の所在を随時紹介することとする。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	20		40	40	
新しいことへの挑戦力	○		○		
文学研究の方法の応用	○		○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

自分のプレゼンのヒントにするため、新商品の発表イベント等に関心を持つこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

・図表作成のための道具は必要に応じて貸し与える予定であるが、作業の効率化のため、用意出来るものは各自で持参するよう要望する。
・プレゼンテーション演習 Ⅰ の単位を修得済みであることを前提とする。未履修の場合は平行してプレゼンテーション演習 Ⅰ を受講することを原則とするが、時間割の制約でそれが難しい場合は、初回の授業終了後に必ず相談に来ること。
・また、今年度は 6/28(土)の「オープンキャンパス」への参加を必須とする。各自の適性を踏まえ、負担感のないよう十分配慮するので、必ず予定はあけておくこと。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
情報機器利用による プレゼンテーション演習		〔2〕	日	2	**小野田貴夫**

キャスト：１０ 人前で意見を発表する　　［プレゼン：必］

Ⅰ 主題
情報機器を使用した効果的なプレゼンテーション能力を身につける。

Ⅱ 授業の到達目標
1.パソコンや携帯端末の機能を利用したプレゼンができるようになる
2.携帯端末により得た各データをパソコン上に提示できるようになる
3.各データをプレゼンに相応しいかたちに編集できるようになる

Ⅲ 授業の概要
パソコンや携帯端末等の身近な情報機器を使用する課題によって、プレゼンテーションの能力を高めていく。

Ⅳ 授業計画と内容

項目		内容
1～2.	情報機器の概要	パソコンと携帯電話の基本的な連携
3～4.	Word、Excl、Powerpointの連携	オフィスの基本的な操作
5～6.	写真の効果的な利用	写真をPCに取り込む
7～8.	写真の編集	PC上で画像データを編集する
9～10.	ビデオの効果的な利用	ビデオ映像をPCに取り込む
11～12.	ビデオの編集	PC上でビデオデータを編集する
13～15.	音声データの効果的な利用	音声データをPCに取り込む
16～17.	音声データの編集	PC上で音声データを編集する
18.	Powerpointと各データとのリンク	各データのプレゼンの構成
19～20.	各グラフの表示・提示の作成	Excelによるデータのグラフ化
21～22.	各グラフの表示・提示の方法	Excelによるグラフの効果的な表示
23～24.	フィールドワーク（情報収集）	参与観察の情報収集（携帯電話の利用）
25～26.	フィールドワーク（分析・考察）	データの提示方法・Powerpointの構成
27～28.	フィールドワーク（発表）	プレゼンテーションの実施（発表）
29～30.	まとめ	

Ⅴ 使用テキスト・教材等
資料を配布する

Ⅵ 参考書・参考資料

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100		15	75	10	
情報収集が適切に実施できる		○			
情報を適切に加工・編集できる		○	○	○	
効果的にプレゼンができる		○	○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
各回に配布する資料の再読と課題の実施。
PC及び携帯端末の機能の操作に慣れること。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
WEB メール（フリーのアカウントで可）を取得しておくこと
USBメモリ持参

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
コミュニケーション論		**2**	**日**	**1**	**大石雄子**

キャスト：１１　現代社会と向き合う言葉　　［プレゼン：選　キャリア：選］

Ⅰ　主題

この授業は、日本人の対人コミュニケーションのあり方やしくみ、特徴などについて学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標

1.コミュニケーション学の基礎知識を習得する
2.応用として体験や考察から各種理論を理解する
3.最終的にコミュニケーション能力を養うことを目標とする

Ⅲ　授業の概要

基本的には講義形式であるが、コミュニケーション能力を養うためのトレーニングを頻繁に取り入れながら、進めてゆく。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. コミュニケーションとは	コミュニケーションとは何か、なぜコミュニケーション能力が必要かなど
2. コミュニケーションの基礎概念	レベル、モデル、基本原理など
3. 言語・非言語コミュニケーションの概要	内容、特徴、対人コミュニケーションにおける重要性の割合など
4. バーバルコミュニケーション	日本社会、日本人のV・Cについて
5. バーバルコミュニケーションの文化差	欧米の特徴と相違点など
6. ノンバーバルコミュニケーション	日本社会、日本人のN・Cについて
7. ノンバーバルコミュニケーションの文化差	欧米の特徴と相違点など
8. 日本人のコミュニケーション	日本人特有のスタイル
9. 対人距離	パーソナルスペース、対人距離の特徴・文化差
10.コミュニケーションと自己①	ジョハリの窓
11.コミュニケーションと自己②	質問紙などにより、自己を客観的に眺める
12.自己開示と自己呈示	特徴及び自己の開示・呈示傾向を知る
13.マスメディアによるステレオタイプ	マスメディアの影響
14.ステレオタイプの具体例および偏見	静岡人、日本人、アジア人、各国人に対する差別との関連 ステレオタイプについての考察
15.より良いコミュニケーターとなるために	多文化主義、自文化中心主義
定期試験	筆記試験

Ⅴ　使用テキスト・教材等

インターパーソナル　コミュニケーション　　深田博己　著　　北大路書房

Ⅵ　参考書・参考資料

必要に応じて資料配布および関連文献を紹介する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	80			20	
コミュニケーション学の理解と習得	○			○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

テキストの次回内容部分に目を通しておく。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

テキストは必ず購入すること。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
報道と言葉		**2**	**日**	**1**	**宮本淳子**

キャスト：１１現代社会と向き合う言葉　　［プレゼン：選］

Ⅰ　主題

公平性を保つ表現者として使用すべき日本語についての知識を習得するために、
報道する側(「伝える側」特にアナウンサー・記者)の言葉に対するこだわりを学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標

1.受け手に配慮した言葉選びができる。
2.身近な出来事を題材に、記者の視点でニュース原稿を作成することができる。
3.一般的に注目されているニュースを把握し、簡単な説明ができる。

Ⅲ　授業の概要

①1 週間で起こった「注目のニュース」をチェックするテストの実施。
②ニュース原稿を用いて、記者が使用する言葉の特徴を知る→原稿作成手法を学ぶ
③語彙力テスト→日本語についての知識を向上させる。
以上の①～③を毎回行うことで、表現者としての総合的な知識を習得していく。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	はじめに	授業内容の紹介
2.	ニュース原稿について	新聞・テレビ・ラジオの違い
3.	ニュース原稿におけるこだわり	報道人としての言葉選び
4.	ニュース原稿の書き方①	ニュース原稿の構成
5.	ニュース原稿の書き方②	記者の観点
6.	ニュース原稿の書き方③	表現力
7.	取材①	取材のノウハウ
8.	取材②	話材の選択
9.	取材③	情報の取捨選択
10.	ニュース原稿作成①	スポーツ原稿
11.	ニュース原稿作成②	政治・経済原稿
12.	ニュース原稿作成③	話題原稿
13.	災害報道と言葉	やさしい日本語について
14.	今後の報道の言葉	報道の将来像を考察する
15.	まとめ	まとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	40	30		30	
伝える側の言葉へのこだわりの理解	○	○		○	
時事問題への関心	○	○		○	
ニュース原稿作成力		○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

各メディアからバランスよく情報を得る生活を心がけること。
ニュース原稿の作成にあたり、各自で取材を行ってもらうことがある。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

インターネット上で誰もが気軽に情報を発信できる時代だからこそ、受け手に配慮した言葉選びができる能力が必要とされます。普段、何気なく耳にしている「報道の言葉」から、そこに用いられている受け手への配慮について、改めて考えてみましょう。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
情報概論		**2**	**日**	**2**	**谷口真嗣**

キャスト：１１　情報機器をマスターする　　［プレゼン：選］

Ⅰ　主題

情報化社会で必須なスキルをどのように活かすのかが情報化社会を生き抜くキーワードである

Ⅱ　授業の到達目標

1.コンピュータの基本構成や機能などを最確認し、理解を深める
2.ネットワークの危険性や社会的ルールなどを理解し、考察する
3.更に理解を深め、的確な判断や応用できる力を身につける

Ⅲ　授業の概要

情報化社会で必須なスキル（基本的な仕組みや特性、関連する法律など）を再確認し、考える力を持つ

Ⅳ　授業計画と内容

この授業はテキスト中心で行うが、授業の最後に簡単な小レポートを行う

	項　目	内　容
②	高度情報化社会とは	高度情報化とそのプラス／マイナス面　など
③	EUCとは	EUCの進化と変遷、形態、標準化など
④	情報の基礎知識	単位、進数変換、CPUとメモリ、OSの種類と特徴、プログラミング言語とプログラムなど
⑤	情報倫理	情報に関する社会的ルールなど
⑥　⑦	ネットワークと構成	ネットワーク構成機器とネットワーク、集中処理と分散処理、LANの導入と情報の共有など
⑦　-⑩	インターネットとイントラネット	イントラネットの仕組み、各種サーバやサービス、HTML 言語など
⑪⑫	セキュリティ	狙われるコンピュータ、ウィルス、覗かれる個人情報、意識改革など
⑬⑭	マルチメディア	マルチメディアと社会の変化、教育　など
⑮	まとめ	
定期試験		筆記試験

Ⅴ　使用テキスト・教材等

プリント配布

Ⅵ　参考書・参考資料

ひと目でわかる最新　情報モラル　　日経 BP 社

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小レポート	授業態度		
配点比率(%)　合計 100%	70	30			
コンピュータの基礎知識	○	○	○		
ネットワークの危険性とルール	○	○	○		
社会倫理とセキュリティ	○	○	○		
高度情報化について	○	○	○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

新聞や雑誌・TV など各種メディアでの先端技術に関する報道に興味を持つこと。
率先してコンピュータを使用すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業を欠席した場合、成績から-5 点を減点します。また著しく授業態度が悪い場合は退席を求め、欠席と同等の扱いをします。なお教員は欠席に関する問い合わせには応じませんので各自自己管理すること。※詳細は第 1 回の授業で示します。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
ライフデザイン研究		**2**	**日**	**1**	**田中さおり**

キャスト：１２ キャリアを探る糸口　　［キャリア：選］

Ⅰ　主題

本授業では「キャリア」を理解し、自分らしく生きていく方法や考え方を学ぶとともに、実践的なコミュニケーションや自己開示など幸せに生きるための人間関係構築力についても身につけることを目標とする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.自己理解を通じて主体的に考え、行動する力を身につけることができる
2.卒業後の生活も視野に入れ「働く」ことを考え、将来設計を立てる
3.社会で必要な常識やマナーを理解し、円滑な人間関係を築くことができるようになる

Ⅲ　授業の概要

授業は、講義のほかペアやグループでのコミュニケーションを行いながら進める。
ペア・グループごとワークの発表を行う

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1	キャリアデザインって何だろう	キャリアデザインの基礎理解
2	ネットワーキング	友人を広げる方法を考え、体感する
3	学生生活を充実させよう	生活や学びの意味を考える
4	自分について考えよう	自分の価値観や他人から見える自分について考える
5	コミュニケーション①	話の聞き方や伝え方について考える
6	コミュニケーション②	他人との意思決定を通じ協力の意味を理解する
7	仕事について考える①	事例研究を基に仕事について考える
8	仕事について考える②	会社とは？そこで働くことをイメージるす
9	社会で生きることを理解しよう	多様な働き方から目的や働く意味について考える
10	社会で求められる能力	仕事をしていくために必要な能力を理解する
11	将来を考える	将来の進路選択をイメージする
12	ライフラインチャート	自分の歩みを振り返りこれからの生き方を考える
13	社会、仕事をイメージしよう	業種、職種、仕事、就職活動について理解する
14	幸せな人生を送るために	ゲームを通じてこれからの人生を体感する
15	まとめ	今までの授業の内容をまとめる
	定期試験	筆記試験・小論文

Ⅴ　使用テキスト・教材等

なし

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 ／ 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	25	15	0	60	0
自己分析を通じた自己理解		○		○	
将来の目標設定と達成イメージの理解	○	○		○	
コミュニケーション技法の習得と理解	○			○	
キャリアの理解	○			○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

テーマ・課題について身近な人へのインタビューを行うこと
その都度、次回授業課題を指示する

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
ビジネス文書実務		**2**	**日**	**2**	**大石雄子**

キャスト：１１　情報機器をマスターする（１年生用：キャスト１２）　［プレゼン:選　キャリア:選］

Ⅰ　主題

この授業は、ビジネス文書の知識と技能を習得する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.ビジネス文書関連の基礎知識を身に付ける
2.応用として文書作成の技能を習得する
3.最終的に就職関連を含め各種文書が「書ける」ことを目標とする

Ⅲ　授業の概要

ビジネス文書が作成できるようになるため、実際に「書く」ことを中心に進めていく。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	ビジネス文書とは(1)	ビジネス文書の種類
2.	ビジネス文書とは(2)	ビジネス文書の基礎知識
3.	文書作成の基本	文書作成・表記のルール(横書き、漢数字、口語体など)
4.	文書表現関連知識	ビジネス文書用語、決まり文など
5.	社内文書(1)	レイアウト、注意事項
6.	社内文書(2)	文書作成(通知文、案内文、報告書など)
7.	社外文書(1)	レイアウト、注意事項
8.	社外文書(2)	文書作成(通知状、案内状、依頼状など)
9.	社交文書(1)	レイアウト、注意事項
10.	社交文書(2)	文書作成(礼状、祝い状、見舞い状など)
11.	社交文書(3)	縦書きの社交文書作成練習
12.	就職活動関連の文書(1)	流れ、種類、レイアウト、注意事項
13.	就職活動関連の文書(2)	就活関連文書作成練習(資料請求、応募書類の添え状、会社訪問礼状、内定後の礼状など)
14.その他		葉書・返信用はがき・封筒の書き方、郵便の知識など
15.電子メール		Eメールの基本的なマナーと作成上の注意点
定期試験		筆記試験

Ⅴ　使用テキスト・教材等

改訂版　ビジネス文書実務　　石井典子他著　　早稲田教育出版

Ⅵ　参考書・参考資料

必要に応じて資料配布および関連文献を紹介する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	80			20	
ビジネス文書の理解と習得	○			○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

テキストの次回内容部分に目を通しておく。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

テキストは必ず購入すること。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
接遇とマナー		**2**	**日**	**1**	**大石雄子**

キャスト：１２ キャリアを探る糸口

Ⅰ 主題

この授業は、社会人として必要な基本的マナーおよびビジネスマナーについて学ぶ。

Ⅱ 授業の到達目標

1.ビジネスマナーの基礎知識を身に付ける
2.応用として技能を習得する
3.最終的に「できる」ことを目標とする

Ⅲ 授業の概要

ビジネスマナーの基礎理論を講義形式で学び、その後ロールプレイング形式で習得していく。また、就職活動を念頭に置いての学習も取り入れて行う。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	ビジネス社会の基礎知識	企業に関する知識および社会人としての心得
2.	職場での人間関係とコミュニケーション	「ホウレンソウの原則」、指示の受け方、報告の仕方など
3.	基本的動作	入退室、お辞儀、イスの座り方・立ち方、挨拶、身だしなみ、第一印象
4.	言葉づかい(1)	丁寧語、尊敬語、謙譲語、接遇用語の基礎知識
5.	言葉づかい(2)	敬語の応用、慣用語、具体的表現
6.	言葉づかい(3)	敬語のロールプレイング
7.	接遇(1)	訪問、受付、名刺の出し方・受け方、取次ぎ、案内
8.	接遇(2)	席順、茶菓、紹介など
9.	接遇(3)	接遇業務のロールプレイング
10.	電話応対(1)	基本、注意事項、かけ方・受け方
11.	電話応対(2)	応用、状況別対応の具体例
12.	電話応対(3)	電話応対のロールプレイング
13.	慶弔業務(1)	慶事・弔事の服装とマナー、贈答の心得
14.	慶弔業務(2)	パーティ・テーブルマナーなど
15.	国際マナー	国際儀礼(プロトコル)、日本との相違点など
	定期試験	筆記試験

Ⅴ 使用テキスト・教材等

ビジネスのマナー・文書・実務の基礎知識　　佐々木怜子監修　　株式会社ぎょうせい

Ⅵ 参考書・参考資料

必要に応じて資料配布および関連文献を紹介する。

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	80			20	
ビジネスマナーの理解と習得	○			○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

テキストの次回内容部分に目を通しておく。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

テキストは必ず購入すること。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
インターンシップⅠ		**1**	**日**	**1**	**宮本淳子**

キャスト：１２　キャリアを探る糸口　　［プレゼン：選　キャリア：選］

Ⅰ　主題

インターンシップⅡ（職場体験）を成功させるために、
社会人としてのマナーを身につけ、「働く」ことに対する意欲を高める。

Ⅱ　授業の到達目標

1.社会人として必要な自己管理能力をみにつける。
2.1 分間の自己 PR ができる。
3.仕事を絡めた自分の将来像を描くことができる。

Ⅲ　授業の概要

インターンシップⅡに備え、仕事をする上での心構えを身につけると共に、自身の職業観や適性を知るうえで大切な自己分析も行っていく。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.現時点での職業観	自己分析
2.働くことについて	自分の将来像を描く
3.企業が求める人材について	時代が求める人材の把握
4.インターンシップについて	インターンシップの意義・内容
5.インターンシップ先選定①	企業研究・職種研究
6.インターンシップ先選定②	インターンシップ電話交渉の説明
7.インターンシップに向けての心構え	注意事項の確認

Ⅴ　使用テキスト・教材等

適宜プリントを配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%		50	20	30	
社会人の心構え		○	○	○	
自己 PR 文の作成		○	○	○	
将来ビジョンの作成		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

インターンシップ先との事前連絡については、各自で授業時間外に行ってもらう。
スケジュール決定やインターンシップ事前課題の提出のために、授業時間外で教員とのメール連絡や課題提出を求める場合がある。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

インターンシップⅡを受講しない者の受講は認めない。（インターンシップⅠとⅡはセットで受講すること。）
「図書館実習」を希望する者は（実習が同時期になるため）受講できない。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
インターンシップⅡ		〔1〕	**日**	**1**	**宮本淳子**

キャスト：１２ キャリアを探る糸口　　［プレゼン：選　キャリア：選］

Ⅰ　主題

実践を通じてこそ獲得できる社会人としての自分の将来像を描くために、
職場での業務を体験することで、就職活動に積極的に取り組む心構えを養う。

Ⅱ　授業の到達目標

1.職業選択をする際、自分が重要視する点を認識する。
2.社会人としての自己管理能力を養う。
3.職業体験を自身の将来設計に役立てることができる。

Ⅲ　授業の概要

5日間程度、県内の企業（職場）での研修を行う。

Ⅳ　授業計画と内容

企業によって業務内容は異なるが、それぞれ実務を行って業務を体験する。
研修先は学校側が用意したリストの中から、各自の居住地区・希望職種・希望業界で選ぶことになる。
（第一希望に添えないことがある。）

Ⅴ　使用テキスト・教材等

特になし

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（ 面接 ）
配点比率(%)　合計 100%	30		50		20
与えられた仕事を確実に実行する	○		○		○
現場における積極性	○		○		○
職場体験を踏まえた将来設計	○		○		○

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

・実習中は業務に専念できる生活を心がけること。
・インターンシップ先決定後、積極的に企業研究を行うこと。
・実習日誌を書いてもらい、実習後にレポート提出すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

・インターンシップⅠの受講者のみ受講できる。
・希望者多数の場合は、インターンシップⅠの成績や面接などにより選考を行う。
・研修に必要な諸経費（交通費・食費等）は全て自己負担となる。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
きものと文化Ⅰ		**2**	**日**	**1**	**大野泰世**

キャスト：１３ 伝統文化を体験する

Ⅰ　主題

この授業では、着物TPOに合わせた着つけと礼儀作法を身に付ける。

Ⅱ　授業の到達目標

1.きもの を理解し、着付け・礼儀作法を通して、日本の心を身に付け、きもの文化を学ぶ。
2.きもの の形・名称・畳み方など基礎から学び、自装着つけを重点的に実習できる。
3.さらに浴衣・普段着と、その帯結びの実技が、仕上げられるようになる。着つけ3級資格（別途料金）受験可

Ⅲ　授業の概要

この授業は、きものに触れながら「和」文化の今と昔の知恵を活かした所作を実習する。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. きものの形式説明/着方説明と模範	内容説明/実技紹介/小物の使い方
2. 着る前の心得と準備/下着・補正の整え方	足袋の履き方/長襦袢着方/名称/畳み方。
3. 半衿の付け方・マナー①	長襦袢に半衿を縫い付ける（美しい衿元を作る。）/お辞儀の仕方・立ち方・座り方。
4. 着つけ方と半巾帯の結び方/マナー②	歩き方/2の復習/普段着の着つけと蝶結び・半衿付けを確認。
5. 下着から帯結びまで	補正と着もの（普段着）着装/貝ノ口結び。
6. 目的に応じた着つけ実習/講義	ミス・ミセスの違い/美しい装い。
7. きものの着つけと帯結び応用	下着からきものまで・肩流し（半巾）。
8. きものの着つけ復習・帯結びアレンジ	復習（無駄のない動きを身に着ける）。
9. なごや帯の着せ畳み、と仕舞い畳み	お太鼓の作り方・帯揚げ・帯締めの結び方
10.浴衣の着つけ方と帯結び（半巾帯復習）	浴衣をきれいに着付けるコツ。
11.浴衣の着つけ方と帯結び復習	浴衣の由来と種類／コーデイネイト／小物の合わせ方
12.着つけ実技（10 分）/筆記（20 分）	まとめ（小テスト）
13.袴の着つけ ①	袴の着付け方と一文字結び。
14.袴の着つけ ②　復習.	草履とブーツ着つけの違い
15.袴の着つけ ③　復習.	14 回目の復習・袴姿で庭に出て美しいポーズの決め方。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

きものの着つけと帯結び　　高原 光子　　桜花出版
大クリップ(2 個)
バイアス仕立て衿(衿芯付き)

Ⅵ　参考書・参考資料

必要に応じて写真等を持参して一緒に学習する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他(創作力)
配点比率(%)　合計 100%		75	10	5	10
きものと文化の理解		○	○	○	
着つけ方・着せ方・着ものに対する心意気		○	○	○	
自らの考えを前に出す勇気と応用力			○		○

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

授業で使用する本を基にイメージトレーニングを行い、学習したことを必ず確認する。
復習と予習をする。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

履修上の注意：着付けに必要な、きもの及び小物は レンタルとする。但し長襦袢（応相談）・足袋・下着（襟首の開いたもの、タンクトップ形式でも可）・タオル 3 枚（補正用）は、各自持参。
レンタル料・教材費（14,200 円）は受講者負担。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
きものと文化Ⅱ		**2**	**日**	**1**	**大野泰世**

キャスト：１３ 伝統文化を体験する

Ⅰ 主題

この授業では、「Ⅰ」を習得された方を対象に復習～応用を目標に行う。

Ⅱ 授業の到達目標

1.実技主体、様々な体型とそれぞれの目的に対応できる技を磨く。他装技術の学習。
2.袴着つけの仕上げ、礼装着つけについての知識と実習、ヘアーメイクについて等総体的考察ができ、「Ⅰ」より進んだ礼儀作法の実習で「品」を高めていく。
3.さらに着つけ技術のスキルアップ、礼装着のまとめ。着つけ 3 級取得者は、二級資格（別途料金）受験可。

Ⅲ 授業の概要

他装技術と知識を身につける。着ものは、日本の心、礼儀作法が伝える中で育まれた豊かさを学習する。
「技」と「心」を磨き、着もの美人に成長していく。
一人で着もの着装・お太鼓結びを目標に仕上げる。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	袴の着せつけと帯結び/マナー③	袴の着せ合い/椅子のかけ方・座り方 。
2.	袴の着つけ総仕上げ/仕舞い畳み	袴を下着から結びまで確実に仕上げる。
3.	着ものの着つけ方、礼装と袋帯結び方①	礼装着についてと着つけのポイント。 （ミセスの式服）と二重太鼓。
4.	着ものの着つけ方、礼装と袋帯結び方②	（ミスの式服）とふくら雀（他装）。
5.	3 回～4 回までの復習と畳み方	
6.	目的に応じた着つけ実習/なごや帯の	ミス・ミセスの違い/普段着着つけ方。 結び方お太鼓結び
7.	きものの着つけとなごや帯結び応用	下着からきもの帯まで/畳み方確実にする。
8.	きものの着つけ復習・帯結びアレンジ	復習（無駄のない動きを身に着ける）。
9.	ヘアー・フエイスメイク実習	顔の形個性を大切に仕上げていく。
10.	きものの着せ方と袋帯のつけ方	留袖の着せ方と二重太鼓（他装）。
11.	これだけは、知っておきたいマナー集	箸と器の扱いかた。風呂敷で作る手提げ。
12.	着つけ方総復習お太鼓結び（なごや帯）	手の流、動きを無駄なく着つける方法。
13.	着つけ実技（15 分）/筆記（20 分）	まとめ（小テスト）。
14-15.	着つけを楽しく仕上げよう。写真撮影	自己管理の中でカメラ持参 OK。

Ⅴ 使用テキスト・教材等

「Ⅰ」で使用した教材を継続使用する。

Ⅵ 参考書・参考資料

必要に応じて写真等を持参する。

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他(創作力)
配点比率(%) 合計 100%		75	10	5	10
きものと文化の理解と心意気		○	○		
着つけ方・着せ方・時間の活用術		○	○	○	
知識・技術・向き合う姿勢・応用力		○		○	○

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

授業で使用する本を基にイメージトレーニングを行い、学習したことを必ず確認する。
確かな技術を身につけるため、復習をしっかり心がける事。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

履修上の注意：長襦袢（「Ⅰ」で使用したものを流用する）・足袋・下着（衿首の開いたもの、タンクトップ形式でも可）・タオル 3 枚（補正用）クリップ大2個は各自持参。
レンタル料（10,000 円）は受講者負担。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
芸能と文化		**2**	**日**	**2**	**平井修成**

キャスト：１３ 伝統文化を体験する

Ⅰ　主題

能・狂言の知識を得、魅力を感じ、これに内包される現代的なテーマを理解する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.芸能の発生についての知識の獲得。
2.楽の演劇としての特殊性の理解。
3.能・狂言の現代的な意義の確認。

Ⅲ　授業の概要

芸能の発生→能の誕生→能の進化→能に秘められた現代的主題→狂言に於ける笑いのメカニズムの順に講義を進める。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	芸能の発生と能①	日本人にとって神とは何か
2.	芸能の発生と能②	神々と芸能
3.	芸能の発生と能③	能舞台にこめられた世界観
4.	芸能の発生と能④	能舞台の変遷
5.	能－その進化と変化①	能を分類する
6.	能－その進化と変化②	世阿弥の芸能論　上
7.	能－その進化と変化③	世阿弥の芸能論　下
8.	癒しの主題①	能とドラマ
9.	癒しの主題②	複式夢幻能の構造
10.	癒しの主題③	能『頼政』を観る
11.	癒しの主題④	複式夢幻能の秘められた主題
12.	笑いの主題①	狂言の起源
13.	笑いの主題②	狂言方の役割－その変遷
14.	笑いの主題③	鳥滸（おこ）の芸能
15.	まとめ	現代に生きる能
	定期試験	試験期間内・複数の課題より1乃至2問を選択して解答

Ⅴ　使用テキスト・教材等

能楽ハンドブック　　戸井田道三監修　　三省堂

Ⅵ　参考書・参考資料

適宜プリントを配布する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	70			30	
芸能の発生論的理解	○			○	
能楽と〈ドラマ〉の相違の理解	○			○	
能・狂言の現代的意義の理解	○			○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

NHKEテレなどで放映される能・狂言の番組を出来る限り視聴すること。
放映日時は、NHKのサイト内を「能楽」で検索すれば知ることが出来る。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

能は、決して堅苦しいものではない。講義も能そのものも、楽しんで欲しい。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
書を楽しむ		**2**	**日**	**2**	**大高昇**

キャスト：１３ 伝統文化を体験する

Ⅰ 主題
書写教育法、書写教育史、実用書式、臨書の問題について学ぶ。

Ⅱ 授業の到達目標
1.書写の実用面を理解し、実技ができるようになる。
2.書写教育法、書写教育史に付いて学び、理論と実技について考察できる。
3.さらに実用書式、用語の知識を利用して、応用できるようになる。

Ⅲ 授業の概要
書写教育法、書写教育史、実用書式を学習し、各人の考察を元に理解を深める。

Ⅳ 授業計画と内容
この授業は、書写・書道の全般について理解できるようにする。

	項目	内容
1	書写概説	書写の基本を確認する。
2	書写と書道	実用、芸術について考察する。
3	教育実習	意義と内容について学習する。
4	書写教育史	戦前の書写教育について学習する。
5	書写教育史	戦後の書写教育について学習する。(小学校)
6	書写教育史	戦後の学習指導要領について学習する。(〃)
7	書写教育史	戦後の書写教育について学習する。(中学校)
8	書写教育史	戦後の学習指導要領について学習する。(〃)
9	臨書	有名な古典を手本として学ぶ。
10	創作	自分の作品についてどう制作するか学習する。
11	実用書式(慶事)	実社会で役立つ書式、用語を学習する。
12	実用書式(弔事)	実社会で役立つ書式、用語を学習する。
13	古典作品	原書を読めるように学習する。
14	芸術	書と他の芸術との関連を学ぶ。
15	まとめ	自分の作品を法帖にして、書作品を鑑賞する。
	定期試験	筆記試験

Ⅴ 使用テキスト・教材等
明解書写教育　全国大学書写書道教育学会　萱原書房
真草千字文　智　永　二玄社

Ⅵ 参考書・参考資料
特になし

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　）
配点比率(%)　合計 100%	50	15	15	20	
書道の理解	○	○	○	○	
書作品の知識及び技術			○		

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
次回の授業範囲を予習し、書道用語の意味等を理解しておくこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
履修上の注意:必ず毎回書道の道具を持参すること。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
図書館実習Ⅰ		**1**	**日**	**1**	**那珂元**

キャスト：１４　書物の世界を逍遥する

Ⅰ　主題

実際の図書館での実習体験を通し、図書館の実務を知る。

Ⅱ　授業の到達目標

1.時間感覚・生活態度など社会人としての常識・マナーを身につける。
2.図書館実務に関する全般的な知識を習得する。
3.コミュニケーション能力を身につける。

Ⅲ　授業の概要

図書館実習は、実際の図書館で業務を観察する、またはそこで実際に作業を行う授業である。実習を通じて、司書資格への適正について自覚を促し、実務への認識を高める。

Ⅳ　授業計画と内容

実習Ⅰのスケジュールを下記に示す。ほぼ隔週で、校内で講義または演習を行う。短大図書館での作業内容は、受講人数やその時の都合によって変更される可能性がある。
実習Ⅱの概要は、実習Ⅰの授業時間内に説明する。

項　目	内　容
1. 概要	
2. 情報検索演習①	情報検索の方法、論理演算
3. レファレンス演習	簡単なレファレンスブックの探索
4. 児童サービス	児童サービスの役割，実践例
5. 小テスト	図書館に関する基礎知識の確認テスト
6. 書架整理	NDC と図書記号の理解
7. 情報検索演習②	実習先図書館の調査
8. 実習にあたっての心構え	電話連絡、お礼状など

Ⅴ　使用テキスト・教材等

無

Ⅵ　参考書・参考資料

無

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100		20	30	50	
社会人としての常識・マナーの習得				○	
図書館に関する知識の習得		○			
コミュニケーション能力の習得			○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

この授業時間以外の学校での生活態度全体も、実習先選定の考慮の範囲内となる。したがって、これらに配慮した生活を心がけるよう求める。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

評価補足：欠席回数が授業回数の 1/3 以上の場合、採点の対象とせず、「不可」とする。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
図書館実習Ⅱ		**1**	**日**	**2**	**那珂元**

キャスト：１４ 書物の世界を逍遥する

Ⅰ 主題

図書館実習は、実際の図書館で業務を観察する、またはそこで実際に作業を行う授業である。実習を通じて、司書資格への適正について自覚を促し、実務への認識を高める。

Ⅱ 授業の到達目標

1.図書館業務の遂行能力（知識と判断力）を習得する。
2.図書館業務に対するモチベーション（積極性や努力）を自ら引き出し持続することができるようになる。
3.実習生としての常識（勤務態度、言葉遣いなど）を身につける。

Ⅲ 授業の概要

図書館実習の体験を通したコミュニケーション能力（対人関係）の育成。

Ⅳ 授業計画と内容

受入先図書館で五日間ほど実習する。実習先の図書館、実習の期日、内容については受講者によって異なる。それらは実習Ⅰの授業期間中に決定する。なお、担当教員または日本語日本文学科教員が実習期間中に受入先図書館を巡回する。

項目	内容
実習（5 日間以上）	書架整理・カウンター業務・目録業務など

Ⅴ 使用テキスト・教材等

無

Ⅵ 参考書・参考資料

無

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100					100
図書館業務の遂行能力					○
仕事に対する意欲					○
研修生としての常識					○
コミュニケション一能力					○

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

実習中は、実習に集中できるような生活を心がけること。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

・図書館実習Ⅰの受講者のみが受講できる。
・実習期間の都合上、インターンシップⅡを履修している場合は，図書館実習Ⅱは履修できない。
・研修に必要な諸経費（交通費・食費）は自己負担とする。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
出版文化論		**2**	**日**	**2**	**那珂元**

キャスト：１４　書物の世界を逍遥する

Ⅰ　主題

私家版雑誌の企画・編集・執筆・印刷・販売を通じて、出版活動全体をプロセスを理解する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.企画に合わせた原稿の執筆と執筆依頼ができる。
2.企画・編集・印刷・製本・販売など出版プロセス全体の流れを理解できるようになる。
3.雑誌の作成を通して出版活動の意義や役割についての理解を深める。

Ⅲ　授業の概要

同人誌を５月と７月にそれぞれ出版する。記事は受講生が分担して執筆する。内容は、創作、エッセイ、評論、取材記事、インタビュー、漫画、写真(ただし白黒)など、公序良俗に反しない限りなんでもよい。また執筆と編集だけでなく、製本のための資金集めや販売なども受講生が行う。

Ⅳ　授業計画と内容

同人誌の出版を通して、出版活動について学習する。

	項　目	内　容
1.	概要	
2.	第一回企画会議	特集、担当、印刷部数、価格等決定
3.	原稿収集と編集①	原稿収集
4.	原稿収集と編集②	チェックと見直し
5.	印刷	学内印刷機を用いて印刷
6.	製本	糊またはホチキスなどでバインド
7.	第一号完成＋販売	販促活動実施
8.	反省会	
9.	第二回企画会議	特集、担当、印刷部数、価格等決定
10.	原稿収集と編集①	原稿収集
11.	原稿収集と編集②	チェックと見直し
12.	印刷	学内印刷機を用いて印刷
13.	製本	糊またはホチキスなどでバインド
14.	第一号完成＋販売	販促活動実施
15.	反省会	

Ⅴ　使用テキスト・教材等

無

Ⅵ　参考書・参考資料

無

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　　合計 100			80	20	
原稿の執筆・依頼の適切性			○		
出版活動への関与度			○	○	
出版活動の意義や役割の理解			○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

書籍の記事の執筆や編集、印刷や販売など、授業時間内に実施できないことが多い。そのために私的な時間を多く割くことになる。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

・評価補足：欠席回数が授業回数の 1/3 以上の場合、採点の対象とせず、「不可」とする。
・雑誌作成のための広い視野を持つことを心がけること。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
ネット文化		**2**	**日**	**1**	**市川真矢**

キャスト：１４ 書物の世界を逍遥する

Ⅰ 主題

書籍をはじめとする各種情報に触れる体験を、インターネットの利用により充実拡張できることを理解する。

Ⅱ 授業の到達目標

1.インターネット上のさまざまな web site から文化に関わる情報を検索できる。
2.クラウドサービスを利用し、収集した情報を蓄積できる。
3.各種 SNS を利用して、情報共有や同好の士との交流ができる。

Ⅲ 授業の概要

無料かつ日本語で利用できるネットサービスを紹介し、卒業研究その他の調査・研究に役立つ使い方を学ぶ。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1	イントロダクション	講義概要、成績評価方法の説明
2	情報の検索(1)	サーチエンジン(Google, Yahoo！など)
3	情報の検索(2)	書籍アーカイブ(青空文庫など)
4	情報の検索(3)	ウィキメディア財団の活動
5	情報の検索(4)	オンライン辞典・事典
6	情報の検索(5)	ニュース(新聞社、通信社、放送局)
7	情報の蓄積(1)	MediaMarker
8	情報の蓄積(2)	Evernote(1)
9	情報の蓄積(3)	Evernote(2)
10	情報の蓄積(4)	Evernote(3)
11	情報の蓄積(5)	Evernote(4)
12	情報の蓄積(6)	Evernote(5)
13	情報の共有と交流(1)	Twitter(1)
14	情報の共有と交流(2)	Twitter(2)
15	まとめ	小レポート執筆について

Ⅴ 使用テキスト・教材等

使用しない。適宜、資料を提示する。

Ⅵ 参考書・参考資料

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	50	30		20	
文化に関わる情報の検索・収集	○	○		○	
文化に関わる情報の蓄積	○	○		○	
文化に関わる情報の共有・交流	○	○		○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

・授業で紹介したインターネット上の各種サービスを実地に使用する課題を課すこと有り。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
ブックデザイン		**2**	**日**	**2**	**奈木和彦**

キャスト：１４　書物の世界を逍遥する

Ⅰ　主題

この授業では、ブックデザイン（装丁）領域について実践・考察する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.装丁に関わる多角的事項を学ぶ。
2.イメージやアイデアの抽出さらに、練り方を演習、制作を通じて体験する。
3.ブックデザインの成り立ちを理解し、その役割と創意工夫の見識を深める。

Ⅲ　授業の概要

この授業は、講義（映像資料等活用）と演習（課題制作）を通じて、幅広いブックデザインの世界の一端に触れる。まとめとして授業の最後に各自の課題制作を発表/講評する。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	ガイダンス	概要説明　装丁について
2.	ブックデザインとは？	歴史・文化・社会とのかかわり
3.	ブックデザインとは？	作品鑑賞
4.	発想から表現へ　演習 1	「ことば」のビジュアル表現　1
5.	発想から表現へ　演習 2	「ことば」のビジュアル表現　2
6.	発想から表現へ　演習 3	「ことば」のビジュアル表現　3
7.	表現から伝達へ　演習 1	「ことば」の視覚伝達（構成）1
8.	表現から伝達へ　演習 2	「ことば」の視覚伝達（構成）2
9.	表現から伝達へ　演習 3	「ことば」の視覚伝達（構成）3
10.	ブックデザイン制作	本（仮想）の装丁作業
11.	ブックデザイン制作	本（仮想）の装丁作業
12.	ブックデザイン制作	本（仮想）の装丁作業
13.	プレゼンテーション/講評	制作課題を発表・講評する
14.	プレゼンテーション/講評	制作課題を発表・講評する
15.	プレゼンテーション/講評	制作課題を発表・講評する

Ⅴ　使用テキスト・教材等

テキストは特に使用しない。適宜、プリントを配布及び持参用具等を通知する。

Ⅵ　参考書・参考資料

本づくり大全　　美術出版社
装丁を語る。　　鈴木成一著　　イースト・プレス

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%		20	50	30	
ブックデザインについての理解		○	○	○	
装丁作業の実践、発表			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

授業時に適宜、伝達する。（課題制作物が授業時間内で完成しない場合など）

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

履修上の注意 ： 演習（課題制作）において、課題説明・グループワーク等を行う為、
遅刻はしないこと。 受講人数に応じて、若干のスケジュール変更有

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
国語科教育法		**2**	**日**	**1・2**	**中村国男**

Ⅰ　主題

中学校における国語科教育の理論と実際を学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標

1.「中学校学習指導要領」を十分に理解する。
2.教材を教授する基盤となる読解力や知識を身に付ける
3.教材を教授する技術・指導力を涵養する。

Ⅲ　授業の概要

教壇に立つ能力を身に付けることを目標に、主として実践的授業体験を蓄積する。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容
1～3.　国語科教育の現在	指導要領を理解し、国語科教育の目的を認識する。
4～5.　教科書はどうできているか	教科書はどのように指導要領を踏まえ、そのねらいの実現を図るか。
6～11.　指導案作成と模擬授業1	教育実習に於いて、不可欠なものである授業指導案について基本的知識を身に付け、模擬授業を実施する。
12～14. 指導案作成と模擬授業2	授業指導案作成の２回目として古典教材を扱い、作成した案にしたがって模擬授業を実施する。
15～23. 指導案作成と模擬授業	指導案作成の３回目として小説教材を扱い、教育実習の実際に合わせ、50分の模擬授業を行う。
24～26. 指導案検討	教育実習に出て行く履修者が増えてくると、残余の履修者での模擬授業が困難になる。この時期には指導案の作成を中心とした演習を行う。
27～28. 教育実習反省会準備	教育実習反省会の為の、発表資料の作成を行う。自らの実習を自己評価する意味でも、有益である。
29～30. 読解力等向上演習	教員採用試験に向け、読解力の向上を図る。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

適宜プリントを配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

適宜指示する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

学習項目＼成績評価方法	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100			30	30	40
教材研究への努力			○	○	
教材の読解能力			○	○	
授業能力			○	○	○

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

年度末に行われる特別補講等、様々なイベントに積極的に参加すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

教職指導センター（1号館3F）を大いに活用して欲しい。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
総合基礎講座		1	日	1	**瀬戸宏太**

Ⅰ　主題

これから日本語および日本文学を研究していくにあたり、総合的かつ基礎的な事柄を学ぶことで、専門分野への意欲をより一層喚起し、基礎知識の涵養をねらう。

Ⅱ　授業の到達目標

1.日本語と日本文学を研究する楽しさに触れることができる。
2.専門的に学んでいくことの面白さを体験することができる。
3.

Ⅲ　授業の概要

複数教員が本講座を担当し、オムニバス方式(全8回)で授業を行なう。
参考として、平成27年度の授業は以下のような内容で実施される。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目

1. 気持ちを伝える言葉と知識を伝える言葉(1)
2. 気持ちを伝える言葉と知識を伝える言葉(2)
3. 日本語の音声表現と話し方
4. コミュニケーションと言葉
5. さくらももこのエッセイ分析
6. 夏目漱石「こころ」第1部、第2部を読む
7. 「あさきゆめみし」から「源氏物語」へ
8. 「源氏物語」の展開図

Ⅴ　使用テキスト・教材等

全ての講座に共通のテキストは使用しない。それぞれの担当教員が、プリント等の教材を必要に応じて用意する。

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100				100	
日本語、日本文学を楽しむ				○	
専門的に学ぶことの面白さを知る				○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

都度指示をする。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

常葉学園高等学校から日本語日本文学科への入学者で、入学前に「科目等履修生徒」として本講座(または「英語系講座」・「保育系講座」)を受講し修了証を受けた者は、入学前の既修得単位として単位認定をする。その場合、決められた申請期間内に教務課で所定の手続きをすること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
ワークショップA		〔1〕	**日**	**1・2**	**瀬戸宏太**

Ⅰ　主題

事前に学んだテーマを踏まえて実際に社会や現場に出て行き、知識を強化する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.参加型:科が行う研修旅行。
2.体験型:県や市の文化企画への参加。
3.発表型:外部提携団体などの企画での発表。

Ⅲ　授業の概要

二段階で構成される。すなわち、座学と実践の両方を合わせ、学内では無理と思われる体験を外部で行うことになる。

Ⅳ　授業計画と内容

時間割外授業であり、計画が決定する都度、その内容を発表して履修者を募る。全てに参加しても、単位に上限があることを承知すること。
参考として、昨年(平成 26 年度)の実施状況を示す。

項　目	内　容
1. 寄席見物(新宿末広亭)と古典落語の世界を訪ねる文学散歩	2 月 1 日(日帰り　古典芸能鑑賞)

Ⅴ　使用テキスト・教材等

用いない

Ⅵ　参考書・参考資料

それぞれのテーマ毎の担当者により、参考書・参考資料を示す。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他(　　)
配点比率(%)　　合計 100		40	20	40	
参加型		○	○	○	
体験型		○	○	○	
発表型		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

担当者の指示による。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

参加後の履修申請では単位認定はされない。登録を確実に行うこと。
基本的にワークショップBと同じ内容である。二年間で参加した場合の、最初の認定がワークショップA、二番目がワークショップBとなる。それぞれ、どれだけ参加すると認定されることになるかは、担当者に確認すること。
なお、成績評価の評語は「認」となる。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
ワークショップB		〔1〕	日	1・2	**瀬戸宏太**

Ⅰ　主題

事前に学んだテーマを踏まえて実際に社会や現場に出て行き、知識を強化する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.参加型:科が行う研修旅行。
2.体験型:県や市の文化企画への参加。
3.発表型:外部提携団体などの企画での発表。

Ⅲ　授業の概要

二段階で構成される。すなわち、座学と実践の両方を合わせ、学内では無理と思われる体験を外部で行うことになる。

Ⅳ　授業計画と内容

時間割外授業であり、計画が決定する都度、その内容を発表して履修者を募る。全てに参加しても、単位に上限があることを承知すること。
参考として、昨年(平成 26 年度)の実施状況を示す。

項　目	内　容
1. 寄席見物(新宿末広亭)と古典落語の世界を訪ねる文学散歩	2 月 1 日(日帰り　古典芸能鑑賞)

Ⅴ　使用テキスト・教材等

用いない

Ⅵ　参考書・参考資料

それぞれのテーマ毎の担当者により、参考書・参考資料を示す。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　　合計 100		40	20	40	
参加型		○	○	○	
体験型		○	○	○	
発表型		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

担当者の指示による。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

参加後の履修申請では単位認定はされない。登録を確実に行うこと。
基本的にワークショップ A と同じ内容である。二年間で参加した場合の、最初の認定がワークショップA、二番目がワークショップBとなる。それぞれ、どれだけ参加すると認定されることになるかは、担当者に確認すること。
なお、成績評価の評語は「認」となる。